2023年度　　専門学校北海道福祉・保育大学校　　社会福祉学科

授業科目 （科目ID）	人間の尊厳と自立	担当教員 （実務経験）	高泉　一生 有 ☑　無 ☐　社会福祉士として病院に勤務		
対象年次・学期	1年・後期	必修・選択区分	必修	単位数	2単位
授業形態	講義	授業回数（1回90分）	15回	時間数	30時間
授業目的	「人間」の理解を基礎として、人権尊重や自立の考え方について理解し、倫理的課題に対応するための社会福祉専門職としての倫理観や視点を涵養する。				
到達目標	①社会福祉（介護福祉を含む）における人間の理解の仕方を説明できる、②人権保障の歴史および福祉理念についての概要を説明できる、③社会福祉（介護福祉を含む）における自立概念を説明できる、④本人主体の観点から、人権尊重や自己決定、権利擁護の考え方に基づくかかわりや支援を考えられる、ことを目標とする。				
テキスト・ 参考図書等	『最新・介護福祉士養成講座1　人間の理解　第2版』介護福祉士養成講座編集委員会　中央法規出版				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準
	試験	%	レポート、リアクションペーパーの内容および提出状況や、他者との対話、交流、ディスカッションに臨む姿勢（主体的参加、共感的理解、無条件の肯定的関心、受動的・積極的姿勢など）、教員の問いかけに対する応答などを総合的に評価する。
	レポート	40%	
	小テスト	%	
	提出物	30%	
	その他	30%	

履修上の 留意事項	本科目は、福祉専門職（介護福祉士、社会福祉士、精神保健福祉士）の基盤であり、福祉専門職としてのアイデンティティ形成に大きく影響する科目である。授業中、自身の価値観、倫理観、援助観を問う場面を多数設定するが、常々「この答えで本当に良いのか」と自分自身に問いかけ、より良い答えを追求する姿勢を忘れずに臨むこと。

履修主題・履修内容

回数	履修主題	履修内容
1	本科目を学ぶにあたって、オリエンテーション	人間の尊厳と自立とは
2	人間の尊厳	人間の理解、生活の営みの歴史を理解するために
3	利用者主体	ICIDHからICFへ、障害者の権利に関する条約
4	人権思想の潮流とその具現化	生存権、社会権、ヒューマニズム、自由権、人権宣言
5	人権や尊厳に関する日本の諸規定	日本国憲法第13条・第25条、社会福祉法、介護保険法、障害者総合支援法
6	社会福祉領域の人権・理念―戦前の変遷―	エリザベス救貧法、人口論、社会ダーウィニズム、COS、セツルメント運動
7	社会福祉領域の人権・理念―戦中の変遷―	パーソナリティの強化、優生思想の政策化
8	社会福祉領域の人権・理念―戦後の変遷―①	子ども、女性、LGBT、高齢者の人権、貧困問題・人権問題、公民権運動
9	社会福祉領域の人権・理念―戦後の変遷―②	バイスティックの7原則、生活モデル、エンパワメント、ノーマライゼーション、ソーシャルインクルージョン
10	社会福祉領域の人権・理念―戦後の変遷―③	QOL、生命倫理と福祉労働
11	人権尊重と権利擁護	権利侵害とその背景、権利擁護の視点、アドボカシー
12	自立概念の理解	自立の多様性、経済的自立、身体的自立、精神的自立、社会的自立、自立に欠かせないもの
13	自立支援	残存機能を活かす、意欲を高める、選択肢を増やす
14	人の尊厳の保持と自立、自立支援	尊厳を損なう介護、尊厳を守るための介護、尊厳を守る自立支援
15	全体のまとめ	各回の振り返り、改めて人間の尊厳と自立とは

授業科目 （科目ID）		担当教員 （実務経験）	有 ☑ 無 ☐
対象年次・学期		担当教員 （実務経験）	有 ☑ 無 ☐
授業形態			
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐

2023年度　　専門学校北海道福祉・保育大学校　　社会福祉学科

授業科目 （科目ID）	人間関係とコミュニケーション	担当教員 （実務経験）	渡辺　舞 有 ☐　無 ☑		
対象年次・学期	1年・前期	必修・選択区分	必修	単位数	2単位
授業形態	講義	授業回数（1回90分）	15回	時間数	30時間
授業目的	心理学的な側面からの対人理解と援助技法を学び、社会福祉現場で実践できる力を身につける。				
到達目標	・自分と他者を理解し表現することができる。 ・集団の中でのコミュニケーション技法を学び、活用することができる。				
テキスト・ 参考図書等	『最新・介護福祉士養成講座1人間の理解　第2版』 介護福祉士養成講座編集委員会　中央法規出版				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準
	試験	80%	試験及び授業内で実施する演習の参加度、出席課題、授業で使用するプリント提出等の総合評価とする。
	レポート	%	
	小テスト	%	
	提出物	10%	
	その他	10%	

履修上の 留意事項	配布プリントはノート代わりの書き込み方式です。最終授業の時に提出してもらい、評価の対象としますので、なくさないように各自ファイル等を準備してください。 座学中心の授業ですが、演習やグループワークで理解を深めていきますので、積極的な授業態度を期待しています。

履修主題・履修内容	回数	履修主題	履修内容
	1	オリエンテーション	履修内容・評価について／自分と相手を理解する
	2	人間と人間関係(1)	自分と他者の理解；私は誰？・相手を知る
	3	人間と人間関係(2)	発達心理学からみた人間関係；発達段階説と社会性の発達
	4	人間と人間関係(3)	社会心理学からみた人間関係；対人認知とグループ・ダイナミクス
	5	人間と人間関係(4)	人間関係とストレス；ストレス理論とソーシャルサポート
	6	対人関係におけるコミュニケーション(1)	コミュニケーションの基本構造；送り手と受け手のしくみ
	7	対人関係におけるコミュニケーション(2)	コミュニケーションの手段①；言語的コミュニケーション
	8	対人関係におけるコミュニケーション(3)	コミュニケーションの手段②；非言語的コミュニケーション
	9	対人援助関係とコミュニケーション(1)	人間関係の発展とコミュニケーション；親密な関係の発達と崩壊
	10	対人援助関係とコミュニケーション(2)	対人援助における基本的態度；受容・共感・傾聴
	11	対人援助関係とコミュニケーション(3)	援助的人間関係の形成；バイステックの7つの原則
	12	組織におけるコミュニケーション(1)	組織における情報の流れ；コミュニケーションの構造
	13	組織におけるコミュニケーション(2)	組織のおける対立と協力；社会的ジレンマ
	14	組織におけるコミュニケーション(3)	組織におけるコミュニケーション；集団討議とリーダーシップ
	15	まとめ	15回のまとめとふりかえり

2023年度　　専門学校北海道福祉・保育大学校　　社会福祉学科

授業科目 （科目ID）	高齢者福祉	担当教員 （実務経験）	小林　智子 有 ☑　無 ☐　社会福祉士として成年後見に従事		
対象年次・学期	1年・後期	必修・選択区分	必修	単位数	2単位
授業形態	講義	授業回数（1回90分）	15回	時間数	30時間
授業目的	本科目では、高齢者とその家族等の生活やこれを取り巻く社会環境について理解を深めます。また高齢者福祉の発展過程と理念、現在、施行されている関連諸制度について理解し、社会福祉士としての適切な支援のあり方について学ぶことを目的とします。				
到達目標	高齢者とその家族等を多面的にアセスメントし、関連諸制度に関する知識やソーシャルワークの価値・技術を用いながら、高齢者と家族等の生活を支えるための具体的な支援方法を説明することができる。				
テキスト・ 参考図書等	『最新　社会福祉士養成講座2　高齢者福祉』 日本ソーシャルワーク教育学校連盟　中央法規出版				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準
	試験	80%	定期試験結果、授業内小テストの結果、授業での積極的な発言や発言内容を総合的に判断して最終評価を行います。
	レポート	%	
	小テスト	10%	
	提出物	%	
	その他	10%	

履修上の 留意事項	本科目では高齢者福祉に関する関連諸制度など、覚えなければならない専門用語・知識がたくさんありますが、これは社会福祉士国家試験受験にあたり、基礎となるものです。分からないことは分からないままにせず、テキストや参考図書で調べる・教員に質問するといった態度で臨んで下さい。板書は行いますが、それ以外にも教員の説明したことを各自でメモを取って下さい。またノートやプリントの整理（ファイリング）は必ず行って下さい。現代社会では高齢者に関わる様々な課題が新聞やニュース、テレビ番組等で見受けられます。社会に関心を持ち、アンテナを張って、たくさんの情報を収集していきましょう。

履修主題・履修内容	回数	履修主題	履修内容
	1	オリエンテーション　高齢者と少子高齢社会	高齢者の定義　高齢化の状況
	2	高齢者の生活実態とこれを取り巻く社会環境	高齢者の生活実態　社会環境
	3	高齢者福祉の歴史と理念①	社会福祉の発達前史
	4	高齢者福祉の歴史と理念②	第二次世界大戦後の福祉六法体制の確立
	5	高齢者福祉の歴史と理念③	保健福祉サービスの量的拡大～地域包括ケアシステムの構築 高齢者福祉の理念
	6	介護保険制度①	我が国の社会保障制度の概要 介護保険制度の概要①介護保険財政　保険者と被保険者　保険料
	7	介護保険制度②	介護保険制度の概要②要介護認定
	8	介護保険制度③	介護保険制度の概要③保険給付　介護保険事業計画
	9	介護保険制度④	介護保険制度の概要④地域支援事業　地域包括支援センター
	10	介護保険制度⑤	サービス体系
	11	高齢者に対する関連諸制度①	老人福祉法　高齢者医療確保法　高齢者虐待防止法
	12	高齢者に対する関連諸制度②	バリアフリー法　高齢者住まい法　高年齢者雇用安定法　育児・介護休業法
	13	高齢者と家族等の支援における関係機関と専門職の役割①	関係機関の役割
	14	高齢者と家族等の支援における関係機関と専門職の役割②	専門職の役割
	15	高齢者と家族等に対する支援の実際	ソーシャルワーカーの役割　支援の実際

授業科目 （科目ID）		担当教員 （実務経験）	有 ☑ 無 ☐
対象年次・学期		担当教員 （実務経験）	有 ☑ 無 ☐
授業形態			
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐

2023年度　　専門学校北海道福祉・保育大学校　　社会福祉学科

授業科目 （科目ID）	介護の基本Ⅰ	担当教員 （実務経験）	木村　聖美 有 ☑　無 ☐　介護福祉士として訪問介護事業所に勤務		
対象年次・学期	1年・通年	必修・選択区分	必修	単位数	4単位
授業形態	講義	授業回数（1回90分）	30回	時間数	60時間
授業目的	介護の基本となる理念や、地域を基盤とした生活の継続性を支援するためのしくみを理解し、介護福祉の専門職としての能力と態度を養う。				
到達目標	「その人らしい生活を支援する専門職」として基本となる考え方や姿勢を学び、「自立に向けた介護とは何か」を理解し、生活支援としての介護の役割や専門的能力を身に付ける。				
テキスト・ 参考図書等	『最新・介護福祉士養成講座3介護の基本Ⅰ　第2版』 介護福祉士養成講座編集委員会　中央法規出版 『最新・介護福祉士養成講座4介護の基本Ⅱ　第2版』 介護福祉士養成講座編集委員会　中央法規出版 『福祉小六法2023』　中央法規出版				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準
	試験	60%	定期試験、小テスト、提出物、グループディスカッションの積極的な姿勢（発言、相手の意見への理解）を総合的に評価します。
	レポート	%	
	小テスト	20%	
	提出物	10%	
	その他	10%	

履修上の 留意事項	テキストを中心に板書・プリント・視聴覚機器などによる学習を行い、演習、事例検討、施設見学等も取り入れます。「介護の専門職」として、基本となる知識、技術、姿勢、思考の基本となることを学ぶ科目です。介護福祉に携わる者としての人格形成をなす中核的科目であることを十分理解して学びを深めてください。

履修主題・履修内容	回数	履修主題	履修内容
	1	オリエンテーション（木村）	授業の概要説明
	2	教科書Ⅱ第1章介護福祉を必要とする人の理解①	生活とは何か
	3	教科書Ⅱ第1章介護福祉を必要とする人の理解②	生活にとって大切な要素、生活の特性
	4	教科書Ⅱ第1章介護福祉を必要とする人の理解③	介護福祉を必要とする人の暮らしを理解するということ 介護福祉を必要とする高齢者の暮らし
	5	教科書Ⅱ第1章介護福祉を必要とする人の理解④	介護福祉を必要とする障害者の暮らし
	6	教科書Ⅱ第1章介護福祉を必要とする人の理解⑤	個人の暮らしや歴史を聴く場合の注意点
	7	教科書Ⅱ第1章介護福祉を必要とする人の理解⑥	その人らしさとは何か、その人らしさの背景、その人らしさの介護福祉における活用、生活ニーズの理解、個々の生活ニーズにどこまでこたえるか
	8	教科書Ⅱ第1章介護福祉を必要とする人の理解⑦	生活のしづらさについて考える、日常生活から考える「生活のしづらさ」
	9	教科書Ⅱ第1章介護福祉を必要とする人の理解⑧	「生活のしづらさ」に対する支援、家族介護者への支援
	10	教科書Ⅱ第2章 介護福祉を必要とする人の生活を支えるしくみ①	施設見学
	11	教科書Ⅱ第2章 介護福祉を必要とする人の生活を支えるしくみ②	施設見学
	12	教科書Ⅱ第2章 介護福祉を必要とする人の生活を支えるしくみ③	高齢者のためのフォーマルサービスの概要
	13	教科書Ⅱ第2章 介護福祉を必要とする人の生活を支えるしくみ④	障害者のためのフォーマルサービスの概要
	14	教科書Ⅱ第2章 介護福祉を必要とする人の生活を支えるしくみ⑤	費用負担の区分、フォーマルサービスとインフォーマルサービスの関係、インフォーマルサービスの種類・提供者　介護福祉士に求められる支援の視点
	15	教科書Ⅱ第2章 介護福祉を必要とする人の生活を支えるしくみ⑥	地域連携の意義と目的

	16	教科書Ⅱ第2章 介護福祉を必要とする人の生活を支えるしくみ⑦	地域連携に関わる機関の理解
	17	教科書Ⅱ第2章 介護福祉を必要とする人の生活を支えるしくみ⑧	利用者を取り巻く地域連携の実際
	18	教科書Ⅰ第4章自立に向けた介護福祉のあり方①	自立支援とは
	19	教科書Ⅰ第4章自立に向けた介護福祉のあり方②	自立支援とエンパワメントの考え方
	20	教科書Ⅰ第4章自立に向けた介護福祉のあり方③	自立支援とICF（国際生活機能分類）の考え方
	21	教科書Ⅰ第4章自立に向けた介護福祉のあり方④	介護におけるICFのとらえ方
	22	教科書Ⅰ第4章自立に向けた介護福祉のあり方⑤	介護予防の概要
	23	教科書Ⅰ第4章自立に向けた介護福祉のあり方⑥	介護予防の種類と特徴
	24	教科書Ⅰ第4章自立に向けた介護福祉のあり方⑦	高齢者の身体特性と介護予防
	25	教科書Ⅰ第4章自立に向けた介護福祉のあり方⑧	介護予防の実際
	26	教科書Ⅰ第4章自立に向けた介護福祉のあり方⑨	自立支援と介護予防
	27	教科書Ⅰ第4章自立に向けた介護福祉のあり方⑩	介護予防における介護福祉士の役割
	28	高齢者と薬①	薬の知識
	29	高齢者と薬②	薬の使用方法と留意点
	30	まとめ	今までの振り返り

2023年度　　専門学校北海道福祉・保育大学校　　社会福祉学科

授業科目 （科目ID）	介護の基本Ⅱ	担当教員 （実務経験）	立成　みゆき 有 ☑　無 ☐　介護福祉士としてデイサービスに勤務		
対象年次・学期	1年・通年	必修・選択区分	必修	単位数	4単位
授業形態	講義	授業回数（1回90分）	30回	時間数	60時間
授業目的	介護の基本となる理念や、地域を基盤とした生活の継続性を支援するためのしくみを理解し、介護福祉の専門職としての能力と態度を養う。				
到達目標	「その人らしい生活を支援する専門職」として基本となる考え方や姿勢を学び、「自立に向けた介護とは何か」を理解し、生活支援としての介護の役割や専門的能力を身に付ける。				
テキスト・ 参考図書等	『最新・介護福祉士養成講座3介護の基本Ⅰ　第2版』 介護福祉士養成講座編集委員会　中央法規出版 『最新・介護福祉士養成講座4介護の基本Ⅱ　第2版』 介護福祉士養成講座編集委員会　中央法規出版 『福祉小六法2023』 中央法規出版				

評価方法・ 評価基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準
	試験	60%	定期試験、小テスト、提出物、総合的にグループディスカッション時の積極的な発言や相手の意見を聞く姿勢などを総合的に評価します。
	レポート	%	
	小テスト	20%	
	提出物	10%	
	その他	10%	

履修上の 留意事項	テキストを中心に板書・プリント・視聴覚機器などによる学習を行い、演習、事例検討、施設見学等も取り入れます。「介護の専門職」として、基本となる知識、技術、姿勢、思考の基本となることを学ぶ科目です。介護福祉に携わる者としての人格形成をなす中核的科目であることを十分理解して学びを深めてください。

履修主題・ 履修内容	回数	履修主題	履修内容
	1	教科書Ⅰ第1章　介護福祉とは①	身近になった介護サービス
	2	教科書Ⅰ第1章　介護福祉とは②	介護の意味、見方、考え方の変化
	3	教科書Ⅰ第1章　介護福祉とは③	介護問題への対応、歴史的変遷①
	4	教科書Ⅰ第1章　介護福祉とは④	介護問題への対応、歴史的変遷②
	5	教科書Ⅰ第1章　介護福祉とは⑤	介護サービスの歴史的変遷、時代背景①
	6	教科書Ⅰ第1章　介護福祉とは⑥	介護サービスの歴史的変遷、時代背景②
	7	教科書Ⅰ第1章　介護福祉とは⑦	介護サービスの歴史的変遷、時代背景③
	8	教科書Ⅰ第1章　介護福祉とは⑧	介護と医行為、医療的ケアについて
	9	教科書Ⅰ第1章　介護福祉とは⑨	介護理念について
	10	教科書Ⅰ第1章　介護福祉とは⑩	基本的人権の主体
	11	教科書Ⅰ第1章　介護福祉とは⑪	利用者主体の生活支援
	12	教科書Ⅰ第1章　介護福祉とは⑫	利用者の権利に基づくサービス指針
	13	教科書Ⅱ第3章　感染対策の基礎	感染対策、手洗い演習、前期まとめ
	14	教科書Ⅰ第2章　介護福祉士の機能と役割①	地域包括ケアシステムの背景
	15	教科書Ⅰ第2章　介護福祉士の機能と役割②	介護問題の背景

	16	教科書Ⅰ第2章　介護福祉士の機能と役割③	介護予防の視点
	17	教科書Ⅰ第2章　介護福祉士の機能と役割④	災害時支援と災害派遣福祉チーム
	18	教科書Ⅰ第2章　介護福祉士の機能と役割⑤	社会福祉士及び介護福祉士法
	19	教科書Ⅰ第2章　介護福祉士の機能と役割⑥	求められる介護福祉士像
	20	教科書Ⅰ第2章　介護福祉士の機能と役割⑦	介護福祉士を支える団体
	21	教科書Ⅰ第3章　介護福祉士の倫理①	介護実践における倫理
	22	教科書Ⅰ第3章　介護福祉士の倫理②	「介護の倫理」と「尊厳ある介護実践」①
	23	教科書Ⅰ第3章　介護福祉士の倫理③	「介護の倫理」と「尊厳ある介護実践」②
	24	教科書Ⅰ第3章　介護福祉士の倫理④	日本介護福祉士会倫理綱領①
	25	教科書Ⅰ第3章　介護福祉士の倫理⑤	日本介護福祉士会倫理綱領②
	26	教科書1第3章　介護福祉士の倫理⑥	倫理について考える演習
	27	まとめ	国家試験に挑戦、授業のまとめ
	28	教科書Ⅰ第4章第3節介護とリハビリテーション①	リハビリテーションの考え方
	29	教科書Ⅰ第4章第3節介護とリハビリテーション②	理学療法の理解
	30	教科書Ⅰ第4章第3節介護とリハビリテーション③	作業療法の理解

2023年度　　専門学校北海道福祉・保育大学校　　社会福祉学科

授業科目 （科目ID）	生活支援技術Ⅰ	担当教員 （実務経験）	加藤　聖子 有 ☐　無 ☑		
対象年次・学期	1年・後期	必修・選択区分	必修	単位数	1単位
授業形態	演習	授業回数（1回90分）	15回	時間数	30時間
授業目的	尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が継続できるよう、根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を習得することを目的とする。特に本講義では家庭生活にかかわる食生活の基本知識を学び、さらに家事支援の意義と目的を理解し、様々な場面に応用できる技能を高めることを目標とする。				
到達目標	・食生活に関わる基本の知識・技術を身につけ、生活に応用させる。 ・サービス利用者の状態や状況に応じた、安全で効率の良い家事支援とその留意点などについて説明することができる。				
テキスト・ 参考図書等	『最新・介護福祉士養成講座6生活支援技術Ⅰ　第2版』 介護福祉士養成講座編集委員会　中央法規出版 『オールガイド食品成分表2023』 実教出版				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準
	試験	60%	定期試験、講義中のミニテスト、提出物から総合的に評価する。
	レポート	%	
	小テスト	10%	
	提出物	30%	
	その他	%	

履修上の留意事項	教室で教科書・プリント・視聴覚機器を使用する講義と、家政学実習室を使用し演習を行います。定期試験、講義中のミニテスト、提出物、実習の取組姿勢から総合的に評価します。提出物の提出期限を守ること、積極的に授業に参加することを心掛けてください。

履修主題・履修内容	回数	履修主題	履修内容
	1	家庭生活の営み①	食生活の基本知識①食文化、食生活の変化
	2	家庭生活の営み②	食生活の基本知識②栄養の理解（炭水化物、脂質）
	3	家庭生活の営み③	食生活の基本知識③栄養の理解（たんぱく質、無機質、ビタミン）
	4	家庭生活の営み④	食生活の基本知識④献立の立て方・食品の購入と選択
	5	家庭生活の営み⑤	食生活の基本知識⑤高齢者・障がい者の食事と調理
	6	家庭生活の営み⑥	食生活の基本知識⑥疾患と食事
	7	家事支援における介護技術①	調理実習レポートの書き方，実習室の使い方，掃除とごみ捨てについて
	8	家事支援における介護技術②	第1回調理実習　献立に基づく栄養価計算、食品の調理性、技法
	9	家事支援における介護技術③	〃　実習・反省 、次回の実習について
	10	家事支援における介護技術④	第2回調理実習　生活習慣病予防の食事、食品の調理性、技法
	11	家事支援における介護技術⑤	〃　実習・反省 、次回の実習について
	12	家事支援における介護技術⑥	第3回調理実習　高齢者・障がい者向けの食事、食品の調理性、技法
	13	家事支援における介護技術⑦	〃　実習・反省 、次回の実習について
	14	家事支援における介護技術⑧	第4回調理実習　高齢者・障がい者向けの食事、食品の調理性、技法
	15	家事支援における介護技術⑨	〃　実習・反省 、次回の実習について

2023年度　　専門学校北海道福祉・保育大学校　　社会福祉学科

授業科目 （科目ID）	生活支援技術Ⅱ	担当教員 （実務経験）	武内　玲美 有 ☐　無 ☑		
対象年次・学期	1年・後期	必修・選択区分	必修	単位数	1単位
授業形態	演習	授業回数（1回90分）	15回	時間数	30時間
授業目的	尊厳や保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が継続できるよう、根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を習得することを目的とする。特に本講義では、生活支援における家庭生活にかかわる基本知識を学ぶことに重点を置き、さらに家事支援の意義と目的を理解し、様々な場面に応用できる知識・技術の習得を目的とする。				
到達目標	・家庭生活に関わる基本の知識・技術を身につけ、生活に応用させることができる。 ・サービス利用者の状態や状況に応じた、安全で効率の良い家事支援とその留意点などについて説明することができる。				
テキスト・ 参考図書等	『最新・介護福祉士養成講座6　生活支援技術Ⅰ第2版』 介護福祉士養成講座編集委員会　中央法規出版				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準
	試験	70%	定期試験、提出物から総合的に評価する。
	レポート	%	
	小テスト	%	
	提出物	30%	
	その他	%	

履修上の留意事項	教室で教科書・プリントを使用する講義と、家政学実習室を使用し演習を行う。定期試験、提出物、実習の取組姿勢から総合的に評価します。提出物の提出期限を守ること、積極的に授業に参加することを心掛けてください。

履修主題・履修内容	回数	履修主題	履修内容
	1	生活支援とは何か	生活を理解する視点・生活支援の基本的な考え方
	2	家庭生活の理解	家庭生活の営みとは　問題演習①
	3	家庭生活の理解	生活設計の考え方（家庭管理）
	4	家庭生活の理解	生活設計の考え方（家庭経済）　問題演習②
	5	家庭生活の営み	被服生活の基本知識①（被服の機能・被服の管理）
	6	家庭生活の営み	被服生活の基本知識②（被服の素材）　問題演習③
	7	家庭生活の営み	被服生活の基本知識③（被服の洗濯）
	8	家庭生活の営み	被服生活の基本知識④（皮膚の衛生保持・管理）　問題演習④
	9	家庭生活の営み	被服の裁縫（裁縫の基本①）
	10	家庭生活の営み	被服の裁縫（裁縫の基本②）
	11	家事支援における介護技術	被服の裁縫（裁縫の基本③）
	12	家事支援における介護技術	被服の裁縫（裁縫の応用①）
	13	家事支援における介護技術	被服の裁縫（裁縫の応用②）
	14	家事支援における介護技術	被服の裁縫（裁縫の応用③）
	15	まとめ	重要項目の確認と演習問題

2023年度　　専門学校北海道福祉・保育大学校　　社会福祉学科

授業科目 （科目ID）	生活支援技術Ⅲ	担当教員 （実務経験）	山谷　博美 有 ☑　無 ☐　介護福祉士として介護老人保健施設に勤務		
対象年次・学期	1年・通年	必修・選択区分	必修	単位数	3単位
授業形態	演習	授業回数（1回90分）	45回	時間数	90時間
授業目的	本人主体の生活が継続できるよう、介護を必要とする対象や様々な場面における根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を習得する。				
到達目標	その人の状況や場面に合わせて、『障害などがあってもこれまでの生活が継続されるように現在の状態を把握し、潜在能力を引き出す』『自立を目指してできる能力を伸ばしていく』といった個別性を重視した介護を展開できるようになる。				
テキスト・ 参考図書等	『最新・介護福祉士養成講座6生活支援技術Ⅰ　第2版』 介護福祉士養成講座編集委員会　中央法規出版 『最新・介護福祉士養成講座7生活支援技術Ⅱ　第2版』 介護福祉士養成講座編集委員会　中央法規出版				

評価方法・ 評価基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準
	試験	60%	その他については、実技達成状況の評価とする。
	レポート	5%	
	小テスト	10%	
	提出物	5%	
	その他	20%	

履修上の 留意事項	・教科書に基づき講義・演習するが、必要に応じて参考資料配布・DVD・AR等を活用する。 ・介護実習室にて演習を行う場合「介護技術学内実習の受け方」に従う。 ・介護技術の基本をマスターできるように、繰り返しの練習とその根拠を知った上で行うことが重要となる。各自の積極性が求められ、授業時間以外においても復習が必要となり常に何ができて何が不充分であるかを確認しながら行ってほしい。

履修主題・ 履修内容	回数	履修主題	履修内容
	1	基本となる介護技術とは何か（山谷）	生活支援技術を学ぶにあたって
	2	生活者体験（山谷）	高齢者・片麻痺体験《実技》
	3	自立に向けた移動の介護①（工藤）	移動の基礎知識、ボディメカニクスの理解
	4	自立に向けた移動の介護②（工藤）	体位変換～上方移動・水平移動～《実技》
	5	自立に向けた移動の介護③（工藤）	体位変換～背面法・対面法～《実技》
	6	自立に向けた移動の介護④（工藤）	体位変換～仰臥位→端座位→立位～①《実技》
	7	自立に向けた移動の介護⑤（工藤）	体位変換～仰臥位→端座位→立位～②《実技》
	8	自立に向けた移動の介護⑥（工藤）	体位変換の復習《実技》
	9	自立に向けた移動の介護⑦（工藤）	体位変換【実技チェック／振り返りシート作成】《実技》
	10	自立に向けた移動の介護⑧（橋本）	褥瘡の予防、安楽な体位の保持、車いすの基礎知識《実技》
	11	自立に向けた移動の介護⑨（橋本）	ベッド⇔車いすの移乗①《実技》
	12	自立に向けた移動の介護⑩（橋本）	ベッド⇔車いすの移乗②《実技》
	13	自立に向けた移動の介護⑪（橋本）	ベッド⇔車いすの移乗③《実技》
	14	自立に向けた移動の介護⑫（橋本）	移乗【実技チェック／振り返りシート作成】《実技》
	15	自立に向けた移動の介護⑬（橋本）	屋内の車いす移動①《実技》

履修主題・履修内容	16	自立に向けた移動の介護⑭（橋本）	屋内の車いす移動②《実技》
	17	自立に向けた移動の介護⑮（山谷）	屋外の車いす移動①《実技》
	18	自立に向けた移動の介護⑯（山谷）	屋外の車いす移動②《実技》
	19	自立に向けた食事の介護①（山谷）	食事の基礎知識、具体的支援内容
	20	自立に向けた食事の介護②・STとの連携（山谷）	嚥下のメカニズムと嚥下の観察や食事時のポジショニング、トロミについて、嚥下体操
	21	自立に向けた食事の介護③（山谷）	食事介助の体験①《実技》
	22	自立に向けた排泄の介護①（山谷）	排泄の基礎知識～リハビリパンツ体験～
	23	自立に向けた排泄の介護②（山谷）	トイレでの排泄介助（リハビリパンツ、尿とりパッド）《実技》
	24	自立に向けた排泄の介護③（山谷）	尿器、便器、ポータブルトイレ、パウチ《実技》
	25	自立に向けた排泄の介護④（山谷）	紙おむつ①《実技》
	26	自立に向けた排泄の介護⑤（山谷）	紙おむつ②《実技》
	27	自立に向けた排泄の介護⑥（山谷）	排泄【実技チェック／振り返りシート作成】《実技》
	28	自立に向けた排泄の介護⑦（山谷）	立位での紙おむつ、布おむつ《実技》
	29	介護実技試験対策①（山谷）	介護実技試験対策①《実技》
	30	介護実技試験対策②（山谷）	介護実技試験対策②《実技》
	31	介護実技試験対策③（山谷）	介護実技試験対策③《実技》
	32	介護実習の振り返り①（山谷）	介護実習の振り返り①《実技》
	33	介護実習の振り返り②（山谷）	介護実習の振り返り②《実技》
	34	自立に向けた移動の介護⑰（山谷）	杖歩行《実技》
	35	自立に向けた移動の介護⑱（山谷）	様々な移乗方法《実技》
	36	自立に向けた移動の介護⑲（山谷）	福祉用具を用いた介助《実技》
	37	自立に向けた移動の介護⑳（山谷）	日常生活道具を用いた介助《実技》
	38	居住環境の整備①（山谷）	住まいの役割と機能
	39	居住環境の整備②（山谷）	生活空間
	40	居住環境の整備③（山谷）	快適な室内環境
	41	居住環境の整備④（山谷）	安全に暮らすための生活環境
	42	居住環境の整備⑤（山谷）	居住環境の整備における多職種との連携
	43	居住環境の整備⑥（山谷）	居住環境のまとめ
	44	介護福祉士国家試験対策（山谷）	介護福祉士国家試験に向けた模擬問題
	45	まとめ（山谷）	生活支援技術のまとめ

授業科目 （科目ID）	生活支援技術Ⅲ	担当教員 （実務経験）	工藤　大暉 有 ☑ 無 ☐ 介護福祉士として介護老人保健施設に勤務
対象年次・学期	1年・通年	担当教員 （実務経験）	橋本　亮太 有 ☑ 無 ☐ 介護福祉士として介護老人福祉施設に勤務
授業形態	演習		
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐

2023度　　専門学校北海道福祉・保育大学校　　社会福祉学科

授業科目 （科目ID）	生活支援技術Ⅳ	担当教員 （実務経験）	織田　なおみ 有 ☑　無 ☐　介護福祉士として障害者支援施設に勤務		
対象年次・学期	1年・通年	必修・選択区分	必修	単位数	2単位
授業形態	演習	授業回数（1回90分）	30回	時間数	60時間
授業目的	この科目で学ぶ介護技術は、単に介助の方法を学ぶだけでなく、その人がこれまでの生活習慣で獲得してきた様式や個性に着目して支援することの大切さを学びます。また、「老い」や「障害」等の見える部分のみを捉えて支援するのではなく、その人を取り巻く環境（人・物）や周囲との関係（相互作用）性等を多角的に捉え、根拠に基づく介護実践（知識と技術の習得）を目指します。				
到達目標	①様々な日常生活行為における意義と目的を説明することができる。②様々な日常生活行為におけるアセスメントの視点を養い、それらを述べることができる。③なぜそのように支援するのか、支援の根拠を理解し述べることができる。④介助におけるポイントや留意点を踏まえ、安全で正確な介助を実施することができる。				
テキスト・ 参考図書等	『最新・介護福祉士養成講座6生活支援技術Ⅰ　第2版』 介護福祉士養成講座編集委員会　中央法規出版 『最新・介護福祉士養成講座7生活支援技術Ⅱ　第2版』 介護福祉士養成講座編集委員会　中央法規出版				

評価方法・ 評価基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準
	試験	50%	定期試験：生活行為の意義・目的、また、支援の根拠等の理解度を評価する。 レポート：課題把握、構成や体裁、考察状況等をルーブリック評価にて評価する。 その他：実技達成状況（30%）、授業姿勢（10%）とする。
	レポート	10%	
	小テスト	%	
	提出物	%	
	その他	40%	

履修上の 留意事項	①教科書に基づいて講義・演習を展開しますが、必要に応じて参考資料配布・視聴覚教材・ARを使用します。②歯科衛生学科教員より口腔ケア講習を受講します。③介護実習室にて演習を行う場合「介護技術学内実習の受け方」に従ってください。④介護技術の習得には、根拠を正しく理解した上で繰り返し取り組む姿勢が重要です。関連科目の横断学習と、授業中はもとより授業時間外でも積極的な練習姿勢を求めます。

履修主題・ 履修内容	回数	履修主題	履修内容
	1	基本となる介護技術とは何か、ベッドメイキング①	生活支援技術を学ぶにあたって、ベッドメイキングの基礎知識
	2	ベッドメイキング②	シーツの畳み方、敷き方（三角コーナー・四角コーナー）①《実技》
	3	ベッドメイキング③	敷き方（三角コーナー・四角コーナー）②《実技》
	4	ベッドメイキング④	敷き方（三角コーナー・四角コーナー）③《実技》
	5	ベッドメイキング⑤	敷き方（三角コーナー・四角コーナー）④《実技》
	6	ベッドメイキング⑥	ベッドメイキング一式、臥床したままでのシーツ交換《実技》
	7	ベッドメイキング⑦	ベッドメイキング【実技チェック】《実技》
	8	自立に向けた身じたくの介護①	着脱の基礎知識
	9	自立に向けた身じたくの介護②	前開きの衣類の着脱（座位）《実技》
	10	自立に向けた身じたくの介護③	丸首衣類の着脱（座位・臥位）《実技》
	11	自立に向けた身じたくの介護④	前開きの衣類の着脱（臥位）《実技》①
	12	自立に向けた身じたくの介護⑤	前開きの衣類の着脱（臥位）《実技》②
	13	自立に向けた身じたくの介護⑥	日常着の着脱、浴衣の着脱《実技》
	14	自立に向けた身じたくの介護⑦	着脱【実技チェック／振り返りシート作成】《実技》
	15	自立に向けた入浴・清潔保持の介護①	入浴に関する基礎知識

履修主題・履修内容	16	自立に向けた入浴・清潔保持の介護②	全身清拭《実技》
	17	自立に向けた入浴・清潔保持の介護③	入浴介助《実技》
	18	自立に向けた入浴・清潔保持の介護④	手浴・足浴の介護
	19	自立に向けた入浴・清潔保持の介護⑤	ハンドマッサージ①《実技》
	20	自立に向けた入浴・清潔保持の介護⑥	ハンドマッサージ②《実技》
	21	自立に向けた入浴・清潔保持の介護⑦	ハンドマッサージ③《実技》
	22	自立に向けた身じたくの介護⑧	整容（爪・ひげ剃り）の介助《実技》
	23	自立に向けた身じたくの介護⑨	口腔ケア①《実技》
	24	自立に向けた身じたくの介護⑩	口腔ケア②《実技》
	25	休息と睡眠環境を整える	休息と睡眠の基礎知識、睡眠の介護と多職種連携
	26	介護技術の振り返り①	介護技術の振り返り《実技》
	27	介護技術の振り返り②	介護技術の振り返り《実技》
	28	介護技術の振り返り③	介護技術の振り返り《実技》【実技チェック／振り返りシートの作成】
	29	介護福祉士国家試験対策①	介護福祉士国家試験対策①
	30	介護福祉士国家試験対策②	介護福祉士国家試験対策②

2023年度　　専門学校北海道福祉・保育大学校　　社会福祉学科

授業科目 （科目ID）	レクリエーション支援	担当教員 （実務経験）	長江　孝 有 ☑　無 ☐　レクリエーションインストラクターとして こども共育サポートセンターに勤務		
対象年次・学期	1年・前期	必修・選択区分	必修	単位数	1単位
授業形態	演習	授業回数（1回90分）	15回	時間数	30時間
授業目的	世界的な健康増進の動向の中で、「心を元気にする」ためのレクリエーション支援に注目が集められています。本演習では、レクリエーション支援の基礎を学びます。				
到達目標	レクリエーション支援者として、良好なコミュニケーションづくりの理論に裏付けられた信頼関係を築く方法（ホスピタリティ）や動機づけの理論に裏付けられた「自主的、主体的に楽しむ力を高めるレクリエーション活動の展開方法」（アイスブレーキング）を実施できるようになる。				
テキスト・ 参考図書等	『楽しさをとおした心の元気づくり～レクリエーション支援の理論と方法～』 公益財団法人日本レクリエーション協会				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準
	試験	%	小テスト・提出物・演習時の実技・授業への積極的な参加姿勢（発言や意見交換）を総合的に評価します。
	レポート	%	
	小テスト	30%	
	提出物	30%	
	その他	40%	

履修上の 留意事項	テキスト・プリントを基に授業を展開します。体を動かすレクリエーション活動を中心に行ないますので、動きやすい服装で参加してください。楽しく積極的な参加を期待します。

履修主題・履修内容	回数	履修主題	履修内容
	1	オリエンテーション	授業の内容と評価について
	2	レクリエーション概論	レクリエーションとは？
	3	レクリエーション支援の方法	信頼関係づくりの方法・ホスピタリティ
	4	レクリエーション支援の方法	信頼関係づくりの方法・ホスピタリティ
	5	レクリエーション支援の方法	良好な集団づくりの方法アイスブレーキングモデル
	6	レクリエーション支援の方法	良好な集団づくりの方法アイスブレーキングモデル
	7	レクリエーション支援の方法	良好な集団づくりの方法アイスブレーキングモデル
	8	レクリエーション支援の方法	自主的、主体的に楽しむ力を育むレクリエーション活動の展開方法
	9	レクリエーション支援の方法	自主的、主体的に楽しむ力を育むレクリエーション活動の展開方法
	10	レクリエーション支援の方法	自主的、主体的に楽しむ力を育むレクリエーション活動の展開方法
	11	レクリエーション支援実習	プログラムの立案
	12	レクリエーション支援実習	プログラムの立案
	13	レクリエーション支援実習	レクリエーション支援の実施
	14	レクリエーション支援実習	レクリエーション支援の実施
	15	レクリエーション支援実習	まとめ

授業科目 （科目ID）	レクリエーション支援	担当教員 （実務経験）	長江　集子 有 ☑ 無 ☐ レクリエーションインストラクターとして こども共育サポートセンターに勤務
対象年次・学期	1年・前期	担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐
授業形態	演習		
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐

2023年度　　専門学校北海道福祉・保育大学校　　社会福祉学科

授業科目（科目ID）	介護過程の基礎	担当教員（実務経験）	宮下　史惠 有 ☑　無 ☐　介護福祉士として社会福祉協議会に勤務		
対象年次・学期	1年・前期	必修・選択区分	必修	単位数	2単位
授業形態	講義	授業回数（1回90分）	15回	時間数	30時間
授業目的	介護福祉士として専門的な見地から介護を提供できるように、対象となる人の能力を引き出し、本人主体の生活を地域で継続するための介護過程の展開をできる能力を養う。				
到達目標	介護過程の展開を理解し、介護福祉士として専門的な見地から利用者を適切に捉え、本人主体の介護過程を展開できるようになる。				
テキスト・参考図書等	『最新・介護福祉士養成講座9　介護過程　第2版』 介護福祉士養成講座編集委員会　中央法規出版				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準
	試験	70%	定期試験、提出物、グループワークへの参加態度などから総合的に評価を行う。
	レポート	%	
	小テスト	%	
	提出物	20%	
	その他	10%	

履修上の留意事項	テキストをベースに「読む」、「考える」、「書く」、「伝える」講義を中心に、展開過程の演習（事例検討・グループワーク）を並行し「理解する」、「出来る」講義を進めていきます。また、講義内容に沿ったプリント配布があるため、各自でファイルを用意し、ノートやプリントの整理を行ってください。

履修主題・履修内容	回数	履修主題	履修内容
	1	介護過程の意義・目的	介護過程の意義と目的
	2	介護過程の構成要素	介護過程の展開・全体像
	3	介護過程とICF①	ICFの視点と介護過程の関係
	4	介護過程とICF②	ICFを活用した情報収集（個人ワーク①）
	5	介護過程とICF③	ICFを活用した情報収集（個人ワーク②）
	6	介護過程とICF④	ICFを活用した情報収集（グループワーク）
	7	介護過程とICF⑤	ICFを活用した情報収集（発表）
	8	アセスメント（情報収集）①	情報収集の意義・アセスメントの視点
	9	アセスメント（情報収集）②	情報収集と記録（ケーススタディの記録方法①）
	10	アセスメント（情報収集）③	情報収集と記録（ケーススタディの記録方法②）
	11	アセスメント（情報収集）④	事例検討Ⅰ（情報収集の個人ワーク①）
	12	アセスメント（情報収集）⑤	事例検討Ⅰ（情報収集の個人ワーク②）
	13	アセスメント（情報収集）⑥	事例検討Ⅰ（情報収集の個人ワーク③）
	14	アセスメント（解釈・関連付け・統合化）	アセスメントの実際（解説と簡単な個人演習）
	15	まとめ	介護過程の基礎まとめ

2023年度　　専門学校北海道福祉・保育大学校　　介護福祉学科

授業科目 （科目ID）	介護過程の実践Ⅰ	担当教員 （実務経験）	髙橋　綾 有 ☑　無 ☐　介護福祉士としてケアハウスに勤務		
対象年次・学期	1年・通年	必修・選択区分	必修	単位数	3単位
授業形態	講義	授業回数（1回90分）	23回	時間数	45時間
授業目的	介護福祉士として専門的見地から介護を提供できるように、対象となる人の能力を引き出し、本人主体の生活を地域で継続するための介護過程の展開をできる能力を養う。				
到達目標	本人の望む生活の実現にむけて、生活課題の分析を行い、根拠に基づく介護実践を伴う課題解決の思考過程、チームとしての介護過程展開能力を習得する。				
テキスト・ 参考図書等	『最新・介護福祉士養成講座9介護過程　第2版』 介護福祉士養成講座編集委員会　中央法規出版				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準
	試験	60%	その他は、提出課題の内容や提出期限、授業への取り組み姿勢、グループワークや発表への積極的姿勢など総合的に評価します。
	レポート	%	
	小テスト	%	
	提出物	10%	
	その他	30%	

履修上の 留意事項	講義や演習では学生参加型授業が主となります。理解できない場合は質問するなど、積極的な参加を求めます。介護サービス提供に向けて大切な授業です。授業中に課した課題を次回の授業教材として使用する場合があるので、課題の提出期限は必ず守ってください。

履修主題・履修内容	回数	履修主題	履修内容
	1	介護過程の基礎の振り返り	介護過程の基礎の振り返り
	2	アセスメント（解釈・関連付け・統合化）①	アセスメント（解釈・関連付け・統合化）について
	3	アセスメント（解釈・関連付け・統合化）②	事例検討Ⅰ（アセスメント・個人演習）
	4	アセスメント（解釈・関連付け・統合化）③	事例検討Ⅰ（アセスメント・グループワーク）
	5	アセスメント（解釈・関連付け・統合化）④	事例検討Ⅰ（アセスメント・グループワーク）
	6	介護計画立案①	介護計画立案について
	7	介護計画立案②	事例検討Ⅰ（介護計画立案・個人演習）
	8	介護計画立案③	事例検討Ⅰ（介護計画立案・グループワーク）
	9	介護計画立案④	事例検討Ⅰ（介護計画立案・グループワーク）
	10	事例検討	事例検討Ⅱ（アセスメント）
	11	事例検討	事例検討Ⅱ（アセスメント）
	12	事例検討	事例検討Ⅱ（介護計画立案）
	13	事例検討	事例検討Ⅱ（介護計画立案）
	14	事例検討	事例検討Ⅲ（自身の実習事例から～個人ワーク①）
	15	事例検討	事例検討Ⅲ（自身の実習事例から～個人ワーク②）

履修主題・ 履修内容	16	事例検討	事例検討Ⅲ（自身の実習事例から～個人ワーク③）
	17	事例検討	事例検討Ⅲ（自身の実習事例から～個人ワーク④）
	18	介護過程とケアマネジメント①	介護過程とケアマネジメントの関係性
	19	介護過程とケアマネジメント②	チームアプローチにおける介護福祉士の役割①
	20	介護過程とケアマネジメント③	チームアプローチにおける介護福祉士の役割②
	21	国家試験対策模擬問題①	国家試験対策模擬問題①
	22	国家試験対策模擬問題②	国家試験対策模擬問題②
	23	まとめ	介護過程の実践Ⅰまとめ

2023年度　　専門学校北海道福祉・保育大学校　　社会福祉学科

授業科目 （科目ID）	介護総合演習Ⅰ	担当教員 （実務経験）	髙橋　綾 有 ☑　無 ☐　介護福祉士としてケアハウスに勤務		
対象年次・学期	1年・通年	必修・選択区分	必修	単位数	2単位
授業形態	演習	授業回数（1回90分）	30回	時間数	60時間
授業目的	介護福祉基礎実習及び介護福祉実習Ⅰにおける事前、事後学習として位置付け、実習に必要な知識や技術の統合を行うとともに、介護観を形成し、専門職としての態度を養う。				
到達目標	介護福祉実習に必要とされる施設や利用者理解、記録方法の理解、行事プログラムの計画や実践など介護実践に必要な能力を身につける。また実習を振り返り、介護の知識と技術を実践へと結び付けることができる。				
テキスト・ 参考図書等	『最新 介護福祉士養成講座10　介護総合演習・介護実習　第2版』 介護福祉士養成講座編集委員会　中央法規出版 『令和5年度介護福祉実習要項』 学校法人吉田学園専門学校北海道福祉・保育大学校				

評価方法・ 評価基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準
	試験	%	課題の内容、提出状況、実習の進め方や記録方法の理解度にて総合的に評価します。
	レポート	%	
	小テスト	%	
	提出物	30%	
	その他	70%	

履修上の 留意事項	提出物は施設に提出するものもあり、期限厳守でお願いします。理解できないままにしておくと介護福祉実習に影響します。不安なく実習に向かえるよう積極的に取り組んでください。原則欠席をしないことですが、欠席した場合は翌登校時に必ず教員のところへ確認に来るようにしてください。

履修主題・ 履修内容	回数	履修主題	履修内容
	1	介護実習の意義と目的（山谷）	介護実習の意義と目的、到達目標、学習区分と学習内容
	2	実習施設の理解①（泉）	介護福祉基礎実習①の事業所理解について
	3	実習施設の理解②（泉）	介護福祉基礎実習①の事業所理解について、実習目標
	4	記録物について①（泉・髙橋）	個人票の作成①
	5	記録物について②（泉・髙橋）	個人票の作成②、誓約書・同意書の作成
	6	記録物について③（泉・山谷）	実習日誌の目的、目標設定と記録方法、実習日誌の練習①
	7	実習心得（泉・髙橋）	実習の心得、接遇マナー、電話対応
	8	行事運営の理解①（髙橋）	外出レクリエーション計画作成①
	9	行事運営の理解②（髙橋）	外出レクリエーション計画作成②、実習日誌の練習②
	10	介護福祉基礎実習①オリエンテーション（泉・髙橋・山谷）	実習評価について、記録物の確認、提出方法と確認、お礼状
	11	介護福祉基礎実習①まとめ（泉・髙橋・山谷）	介護福祉基礎実習①の振り返り、自己評価
	12	実習施設の理解③（髙橋）	介護福祉基礎実習②の事業所理解について
	13	実習施設の理解④（髙橋）	介護福祉基礎実習②の事業所理解について、実習目標
	14	介護福祉基礎実習②オリエンテーション（泉・髙橋・山谷）	実習評価について、記録物の確認、提出方法と確認、お礼状
	15	介護福祉基礎実習②まとめ（泉・髙橋・山谷）	介護福祉基礎実習②の振り返り、自己評価

履修主題・履修内容	16	介護福祉実習Ⅱ報告会（泉・髙橋・山谷）	介護福祉実習Ⅱ報告会に参加
	17	実習施設の理解⑤（髙橋）	介護福祉基礎実習③の事業所理解について
	18	実習施設の理解⑥（髙橋）	介護福祉基礎実習③の事業所理解について、実習目標
	19	介護福祉基礎実習③オリエンテーション（泉・髙橋・山谷）	実習評価について、記録物の確認、提出方法と確認、お礼状
	20	介護福祉基礎実習③まとめ（泉・髙橋・山谷）	介護福祉基礎実習③の振り返り、自己評価
	21	実習計画の作成①（山谷）	自己の実習計画をイメージし、週別目標を作成
	22	実習計画の作成②（山谷）	自己の実習計画をイメージし、週別目標を作成
	23	介護福祉実習Ⅰオリエンテーション（泉・髙橋・山谷）	カンファレンスの目的と記録、実施方法、記録物の提出方法、実習後のスケジュール
	24	介護福祉実習Ⅰまとめ①（泉・髙橋・山谷）	介護福祉実習Ⅰ振り返り①
	25	介護福祉実習Ⅰまとめ②（泉・髙橋・山谷）	介護福祉実習Ⅰ振り返り②
	26	介護福祉実習Ⅰまとめ③（泉・髙橋・山谷）	介護福祉実習Ⅰ振り返り③
	27	介護福祉実習Ⅰ報告会（泉・髙橋・山谷）	介護福祉実習Ⅰ報告会
	28	介護福祉実習Ⅰ後学習①（泉・髙橋・山谷）	自己評価、自己覚知、2年次実習へ向けた課題
	29	介護福祉実習Ⅰ後学習②（髙橋）	福祉施設と地域の繋がり、社会支援体制①
	30	介護福祉実習Ⅰ後学習③（髙橋）	福祉施設と地域の繋がり、社会支援体制②

授業科目 （科目ID）	介護総合演習Ⅰ	担当教員	泉　共基
		（実務経験）	有 ☑ 無 ☐ 看護師として病院に勤務
対象年次・学期	1年・通年	担当教員	山谷　博美
授業形態	演習	（実務経験）	有 ☑ 無 ☐ 介護福祉士として介護老人保健施設に勤務
		担当教員	
		（実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員	
		（実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員	
		（実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員	
		（実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員	
		（実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員	
		（実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員	
		（実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員	
		（実務経験）	有 ☐ 無 ☐

2023年度　　専門学校北海道福祉・保育大学校　　社会福祉学科

授業科目 （科目ID）	人間の尊厳と自立	担当教員 （実務経験）	高泉　一生 有 ☑　無 ☐　社会福祉士として病院に勤務		
対象年次・学期	1年・後期	必修・選択区分	必修	単位数	2単位
授業形態	講義	授業回数（1回90分）	15回	時間数	30時間
授業目的	「人間」の理解を基礎として、人権尊重や自立の考え方について理解し、倫理的課題に対応するための社会福祉専門職としての倫理観や視点を涵養する。				
到達目標	①社会福祉（介護福祉を含む）における人間の理解の仕方を説明できる、②人権保障の歴史および福祉理念についての概要を説明できる、③社会福祉（介護福祉を含む）における自立概念を説明できる、④本人主体の観点から、人権尊重や自己決定、権利擁護の考え方に基づくかかわりや支援を考えられる、ことを目標とする。				
テキスト・ 参考図書等	『最新・介護福祉士養成講座1　人間の理解　第2版』介護福祉士養成講座編集委員会　中央法規出版				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準
	試験	%	レポート、リアクションペーパーの内容および提出状況や、他者との対話、交流、ディスカッションに臨む姿勢（主体的参加、共感的理解、無条件の肯定的関心、受動的・積極的姿勢など）、教員の問いかけに対する応答などを総合的に評価する。
	レポート	40%	
	小テスト	%	
	提出物	30%	
	その他	30%	

履修上の 留意事項	本科目は、福祉専門職（介護福祉士、社会福祉士、精神保健福祉士）の基盤であり、福祉専門職としてのアイデンティティ形成に大きく影響する科目である。授業中、自身の価値観、倫理観、援助観を問う場面を多数設定するが、常々「この答えで本当に良いのか」と自分自身に問いかけ、より良い答えを追求する姿勢を忘れずに臨むこと。

履修主題・履修内容

回数	履修主題	履修内容
1	本科目を学ぶにあたって、オリエンテーション	人間の尊厳と自立とは
2	人間の尊厳	人間の理解、生活の営みの歴史を理解するために
3	利用者主体	ICIDHからICFへ、障害者の権利に関する条約
4	人権思想の潮流とその具現化	生存権、社会権、ヒューマニズム、自由権、人権宣言
5	人権や尊厳に関する日本の諸規定	日本国憲法第13条・第25条、社会福祉法、介護保険法、障害者総合支援法
6	社会福祉領域の人権・理念―戦前の変遷―	エリザベス救貧法、人口論、社会ダーウィニズム、COS、セツルメント運動
7	社会福祉領域の人権・理念―戦中の変遷―	パーソナリティの強化、優生思想の政策化
8	社会福祉領域の人権・理念―戦後の変遷―①	子ども、女性、LGBT、高齢者の人権、貧困問題・人権問題、公民権運動
9	社会福祉領域の人権・理念―戦後の変遷―②	バイスティックの7原則、生活モデル、エンパワメント、ノーマライゼーション、ソーシャルインクルージョン
10	社会福祉領域の人権・理念―戦後の変遷―③	QOL、生命倫理と福祉労働
11	人権尊重と権利擁護	権利侵害とその背景、権利擁護の視点、アドボカシー
12	自立概念の理解	自立の多様性、経済的自立、身体的自立、精神的自立、社会的自立、自立に欠かせないもの
13	自立支援	残存機能を活かす、意欲を高める、選択肢を増やす
14	人の尊厳の保持と自立、自立支援	尊厳を損なう介護、尊厳を守るための介護、尊厳を守る自立支援
15	全体のまとめ	各回の振り返り、改めて人間の尊厳と自立とは

授業科目 （科目ID）		担当教員 （実務経験）	有 ☑ 無 ☐
対象年次・学期		担当教員 （実務経験）	有 ☑ 無 ☐
授業形態			
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐

2023年度　　専門学校北海道福祉・保育大学校　　社会福祉学科

授業科目 （科目ID）	人間関係とコミュニケーション	担当教員 （実務経験）	渡辺　舞 有 ☐　無 ☑		
対象年次・学期	1年・前期	必修・選択区分	必修	単位数	2単位
授業形態	講義	授業回数（1回90分）	15回	時間数	30時間
授業目的	心理学的な側面からの対人理解と援助技法を学び、社会福祉現場で実践できる力を身につける。				
到達目標	・自分と他者を理解し表現することができる。 ・集団の中でのコミュニケーション技法を学び、活用することができる。				
テキスト・ 参考図書等	『最新・介護福祉士養成講座1人間の理解　第2版』 介護福祉士養成講座編集委員会　中央法規出版				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準
	試験	80%	試験及び授業内で実施する演習の参加度、出席課題、授業で使用するプリント提出等の総合評価とする。
	レポート	%	
	小テスト	%	
	提出物	10%	
	その他	10%	

履修上の 留意事項	配布プリントはノート代わりの書き込み方式です。最終授業の時に提出してもらい、評価の対象としますので、なくさないように各自ファイル等を準備してください。 座学中心の授業ですが、演習やグループワークで理解を深めていきますので、積極的な授業態度を期待しています。

履修主題・履修内容	回数	履修主題	履修内容
	1	オリエンテーション	履修内容・評価について／自分と相手を理解する
	2	人間と人間関係(1)	自分と他者の理解；私は誰？・相手を知る
	3	人間と人間関係(2)	発達心理学からみた人間関係；発達段階説と社会性の発達
	4	人間と人間関係(3)	社会心理学からみた人間関係；対人認知とグループ・ダイナミクス
	5	人間と人間関係(4)	人間関係とストレス；ストレス理論とソーシャルサポート
	6	対人関係におけるコミュニケーション(1)	コミュニケーションの基本構造；送り手と受け手のしくみ
	7	対人関係におけるコミュニケーション(2)	コミュニケーションの手段①；言語的コミュニケーション
	8	対人関係におけるコミュニケーション(3)	コミュニケーションの手段②；非言語的コミュニケーション
	9	対人援助関係とコミュニケーション(1)	人間関係の発展とコミュニケーション；親密な関係の発達と崩壊
	10	対人援助関係とコミュニケーション(2)	対人援助における基本的態度；受容・共感・傾聴
	11	対人援助関係とコミュニケーション(3)	援助的人間関係の形成；バイステックの7つの原則
	12	組織におけるコミュニケーション(1)	組織における情報の流れ；コミュニケーションの構造
	13	組織におけるコミュニケーション(2)	組織のおける対立と協力；社会的ジレンマ
	14	組織におけるコミュニケーション(3)	組織におけるコミュニケーション；集団討議とリーダーシップ
	15	まとめ	15回のまとめとふりかえり

2023年度　　専門学校北海道福祉・保育大学校　　社会福祉学科

授業科目 （科目ID）	高齢者福祉	担当教員 （実務経験）	小林　智子 有 ☑　無 ☐　社会福祉士として成年後見に従事		
対象年次・学期	1年・後期	必修・選択区分	必修	単位数	2単位
授業形態	講義	授業回数（1回90分）	15回	時間数	30時間
授業目的	本科目では、高齢者とその家族等の生活やこれを取り巻く社会環境について理解を深めます。また高齢者福祉の発展過程と理念、現在、施行されている関連諸制度について理解し、社会福祉士としての適切な支援のあり方について学ぶことを目的とします。				
到達目標	高齢者とその家族等を多面的にアセスメントし、関連諸制度に関する知識やソーシャルワークの価値・技術を用いながら、高齢者と家族等の生活を支えるための具体的な支援方法を説明することができる。				
テキスト・ 参考図書等	『最新　社会福祉士養成講座2　高齢者福祉』 日本ソーシャルワーク教育学校連盟　中央法規出版				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準
	試験	80%	定期試験結果、授業内小テストの結果、授業での積極的な発言や発言内容を総合的に判断して最終評価を行います。
	レポート	%	
	小テスト	10%	
	提出物	%	
	その他	10%	

履修上の 留意事項	本科目では高齢者福祉に関する関連諸制度など、覚えなければならない専門用語・知識がたくさんありますが、これは社会福祉士国家試験受験にあたり、基礎となるものです。分からないことは分からないままにせず、テキストや参考図書で調べる・教員に質問するといった態度で臨んで下さい。板書は行いますが、それ以外にも教員の説明したことを各自でメモを取って下さい。またノートやプリントの整理（ファイリング）は必ず行って下さい。現代社会では高齢者に関わる様々な課題が新聞やニュース、テレビ番組等で見受けられます。社会に関心を持ち、アンテナを張って、たくさんの情報を収集していきましょう。

履修主題・履修内容	回数	履修主題	履修内容
	1	オリエンテーション　高齢者と少子高齢社会	高齢者の定義　高齢化の状況
	2	高齢者の生活実態とこれを取り巻く社会環境	高齢者の生活実態　社会環境
	3	高齢者福祉の歴史と理念①	社会福祉の発達前史
	4	高齢者福祉の歴史と理念②	第二次世界大戦後の福祉六法体制の確立
	5	高齢者福祉の歴史と理念③	保健福祉サービスの量的拡大～地域包括ケアシステムの構築 高齢者福祉の理念
	6	介護保険制度①	我が国の社会保障制度の概要 介護保険制度の概要①介護保険財政　保険者と被保険者　保険料
	7	介護保険制度②	介護保険制度の概要②要介護認定
	8	介護保険制度③	介護保険制度の概要③保険給付　介護保険事業計画
	9	介護保険制度④	介護保険制度の概要④地域支援事業　地域包括支援センター
	10	介護保険制度⑤	サービス体系
	11	高齢者に対する関連諸制度①	老人福祉法　高齢者医療確保法　高齢者虐待防止法
	12	高齢者に対する関連諸制度②	バリアフリー法　高齢者住まい法　高年齢者雇用安定法　育児・介護休業法
	13	高齢者と家族等の支援における関係機関と専門職の役割①	関係機関の役割
	14	高齢者と家族等の支援における関係機関と専門職の役割②	専門職の役割
	15	高齢者と家族等に対する支援の実際	ソーシャルワーカーの役割　支援の実際

授業科目 （科目ID）		担当教員 （実務経験）	有 ☑ 無 ☐
対象年次・学期		担当教員 （実務経験）	有 ☑ 無 ☐
授業形態			
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐

2023年度　　専門学校北海道福祉・保育大学校　　社会福祉学科

授業科目 （科目ID）	介護の基本Ⅰ	担当教員 （実務経験）	木村　聖美 有 ☑　無 ☐　介護福祉士として訪問介護事業所に勤務		
対象年次・学期	1年・通年	必修・選択区分	必修	単位数	4単位
授業形態	講義	授業回数（1回90分）	30回	時間数	60時間
授業目的	介護の基本となる理念や、地域を基盤とした生活の継続性を支援するためのしくみを理解し、介護福祉の専門職としての能力と態度を養う。				
到達目標	「その人らしい生活を支援する専門職」として基本となる考え方や姿勢を学び、「自立に向けた介護とは何か」を理解し、生活支援としての介護の役割や専門的能力を身に付ける。				
テキスト・ 参考図書等	『最新・介護福祉士養成講座3介護の基本Ⅰ　第2版』 介護福祉士養成講座編集委員会　中央法規出版 『最新・介護福祉士養成講座4介護の基本Ⅱ　第2版』 介護福祉士養成講座編集委員会　中央法規出版 『福祉小六法2023』　中央法規出版				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準
	試験	60%	定期試験、小テスト、提出物、グループディスカッションの積極的な姿勢（発言、相手の意見への理解）を総合的に評価します。
	レポート	%	
	小テスト	20%	
	提出物	10%	
	その他	10%	

履修上の 留意事項	テキストを中心に板書・プリント・視聴覚機器などによる学習を行い、演習、事例検討、施設見学等も取り入れます。「介護の専門職」として、基本となる知識、技術、姿勢、思考の基本となることを学ぶ科目です。介護福祉に携わる者としての人格形成をなす中核的科目であることを十分理解して学びを深めてください。

履修主題・履修内容	回数	履修主題	履修内容
	1	オリエンテーション（木村）	授業の概要説明
	2	教科書Ⅱ第1章介護福祉を必要とする人の理解①	生活とは何か
	3	教科書Ⅱ第1章介護福祉を必要とする人の理解②	生活にとって大切な要素、生活の特性
	4	教科書Ⅱ第1章介護福祉を必要とする人の理解③	介護福祉を必要とする人の暮らしを理解するということ 介護福祉を必要とする高齢者の暮らし
	5	教科書Ⅱ第1章介護福祉を必要とする人の理解④	介護福祉を必要とする障害者の暮らし
	6	教科書Ⅱ第1章介護福祉を必要とする人の理解⑤	個人の暮らしや歴史を聴く場合の注意点
	7	教科書Ⅱ第1章介護福祉を必要とする人の理解⑥	その人らしさとは何か、その人らしさの背景、その人らしさの介護福祉における活用、生活ニーズの理解、個々の生活ニーズにどこまでこたえるか
	8	教科書Ⅱ第1章介護福祉を必要とする人の理解⑦	生活のしづらさについて考える、日常生活から考える「生活のしづらさ」
	9	教科書Ⅱ第1章介護福祉を必要とする人の理解⑧	「生活のしづらさ」に対する支援、家族介護者への支援
	10	教科書Ⅱ第2章 介護福祉を必要とする人の生活を支えるしくみ①	施設見学
	11	教科書Ⅱ第2章 介護福祉を必要とする人の生活を支えるしくみ②	施設見学
	12	教科書Ⅱ第2章 介護福祉を必要とする人の生活を支えるしくみ③	高齢者のためのフォーマルサービスの概要
	13	教科書Ⅱ第2章 介護福祉を必要とする人の生活を支えるしくみ④	障害者のためのフォーマルサービスの概要
	14	教科書Ⅱ第2章 介護福祉を必要とする人の生活を支えるしくみ⑤	費用負担の区分、フォーマルサービスとインフォーマルサービスの関係、インフォーマルサービスの種類・提供者　介護福祉士に求められる支援の視点
	15	教科書Ⅱ第2章 介護福祉を必要とする人の生活を支えるしくみ⑥	地域連携の意義と目的

	16	教科書Ⅱ第2章 介護福祉を必要とする人の生活を支えるしくみ⑦	地域連携に関わる機関の理解
	17	教科書Ⅱ第2章 介護福祉を必要とする人の生活を支えるしくみ⑧	利用者を取り巻く地域連携の実際
	18	教科書Ⅰ第4章自立に向けた介護福祉のあり方①	自立支援とは
	19	教科書Ⅰ第4章自立に向けた介護福祉のあり方②	自立支援とエンパワメントの考え方
	20	教科書Ⅰ第4章自立に向けた介護福祉のあり方③	自立支援とICF（国際生活機能分類）の考え方
	21	教科書Ⅰ第4章自立に向けた介護福祉のあり方④	介護におけるICFのとらえ方
	22	教科書Ⅰ第4章自立に向けた介護福祉のあり方⑤	介護予防の概要
	23	教科書Ⅰ第4章自立に向けた介護福祉のあり方⑥	介護予防の種類と特徴
	24	教科書Ⅰ第4章自立に向けた介護福祉のあり方⑦	高齢者の身体特性と介護予防
	25	教科書Ⅰ第4章自立に向けた介護福祉のあり方⑧	介護予防の実際
	26	教科書Ⅰ第4章自立に向けた介護福祉のあり方⑨	自立支援と介護予防
	27	教科書Ⅰ第4章自立に向けた介護福祉のあり方⑩	介護予防における介護福祉士の役割
	28	高齢者と薬①	薬の知識
	29	高齢者と薬②	薬の使用方法と留意点
	30	まとめ	今までの振り返り

2023年度　　専門学校北海道福祉・保育大学校　　社会福祉学科

授業科目 （科目ID）	介護の基本Ⅱ	担当教員 （実務経験）	立成　みゆき 有 ☑　無 ☐　介護福祉士としてデイサービスに勤務		
対象年次・学期	1年・通年	必修・選択区分	必修	単位数	4単位
授業形態	講義	授業回数（1回90分）	30回	時間数	60時間
授業目的	介護の基本となる理念や、地域を基盤とした生活の継続性を支援するためのしくみを理解し、介護福祉の専門職としての能力と態度を養う。				
到達目標	「その人らしい生活を支援する専門職」として基本となる考え方や姿勢を学び、「自立に向けた介護とは何か」を理解し、生活支援としての介護の役割や専門的能力を身に付ける。				
テキスト・ 参考図書等	『最新・介護福祉士養成講座3介護の基本Ⅰ　第2版』 介護福祉士養成講座編集委員会　中央法規出版 『最新・介護福祉士養成講座4介護の基本Ⅱ　第2版』 介護福祉士養成講座編集委員会　中央法規出版 『福祉小六法2023』 中央法規出版				

評価方法・ 評価基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準
	試験	60%	定期試験、小テスト、提出物、総合的にグループディスカッション時の積極的な発言や相手の意見を聞く姿勢などを総合的に評価します。
	レポート	%	
	小テスト	20%	
	提出物	10%	
	その他	10%	

履修上の 留意事項	テキストを中心に板書・プリント・視聴覚機器などによる学習を行い、演習、事例検討、施設見学等も取り入れます。「介護の専門職」として、基本となる知識、技術、姿勢、思考の基本となることを学ぶ科目です。介護福祉に携わる者としての人格形成をなす中核的科目であることを十分理解して学びを深めてください。

履修主題・ 履修内容	回数	履修主題	履修内容
	1	教科書Ⅰ第1章　介護福祉とは①	身近になった介護サービス
	2	教科書Ⅰ第1章　介護福祉とは②	介護の意味、見方、考え方の変化
	3	教科書Ⅰ第1章　介護福祉とは③	介護問題への対応、歴史的変遷①
	4	教科書Ⅰ第1章　介護福祉とは④	介護問題への対応、歴史的変遷②
	5	教科書Ⅰ第1章　介護福祉とは⑤	介護サービスの歴史的変遷、時代背景①
	6	教科書Ⅰ第1章　介護福祉とは⑥	介護サービスの歴史的変遷、時代背景②
	7	教科書Ⅰ第1章　介護福祉とは⑦	介護サービスの歴史的変遷、時代背景③
	8	教科書Ⅰ第1章　介護福祉とは⑧	介護と医行為、医療的ケアについて
	9	教科書Ⅰ第1章　介護福祉とは⑨	介護理念について
	10	教科書Ⅰ第1章　介護福祉とは⑩	基本的人権の主体
	11	教科書Ⅰ第1章　介護福祉とは⑪	利用者主体の生活支援
	12	教科書Ⅰ第1章　介護福祉とは⑫	利用者の権利に基づくサービス指針
	13	教科書Ⅱ第3章　感染対策の基礎	感染対策、手洗い演習、前期まとめ
	14	教科書Ⅰ第2章　介護福祉士の機能と役割①	地域包括ケアシステムの背景
	15	教科書Ⅰ第2章　介護福祉士の機能と役割②	介護問題の背景

	16	教科書Ⅰ第2章　介護福祉士の機能と役割③	介護予防の視点
	17	教科書Ⅰ第2章　介護福祉士の機能と役割④	災害時支援と災害派遣福祉チーム
	18	教科書Ⅰ第2章　介護福祉士の機能と役割⑤	社会福祉士及び介護福祉士法
	19	教科書Ⅰ第2章　介護福祉士の機能と役割⑥	求められる介護福祉士像
	20	教科書Ⅰ第2章　介護福祉士の機能と役割⑦	介護福祉士を支える団体
	21	教科書Ⅰ第3章　介護福祉士の倫理①	介護実践における倫理
	22	教科書Ⅰ第3章　介護福祉士の倫理②	「介護の倫理」と「尊厳ある介護実践」①
	23	教科書Ⅰ第3章　介護福祉士の倫理③	「介護の倫理」と「尊厳ある介護実践」②
	24	教科書Ⅰ第3章　介護福祉士の倫理④	日本介護福祉士会倫理綱領①
	25	教科書Ⅰ第3章　介護福祉士の倫理⑤	日本介護福祉士会倫理綱領②
	26	教科書1第3章　介護福祉士の倫理⑥	倫理について考える演習
	27	まとめ	国家試験に挑戦、授業のまとめ
	28	教科書Ⅰ第4章第3節介護とリハビリテーション①	リハビリテーションの考え方
	29	教科書Ⅰ第4章第3節介護とリハビリテーション②	理学療法の理解
	30	教科書Ⅰ第4章第3節介護とリハビリテーション③	作業療法の理解

2023年度　　専門学校北海道福祉・保育大学校　　社会福祉学科

授業科目 （科目ID）	生活支援技術Ⅰ	担当教員 （実務経験）	加藤　聖子 有 ☐　無 ☑		
対象年次・学期	1年・後期	必修・選択区分	必修	単位数	1単位
授業形態	演習	授業回数（1回90分）	15回	時間数	30時間
授業目的	尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が継続できるよう、根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を習得することを目的とする。特に本講義では家庭生活にかかわる食生活の基本知識を学び、さらに家事支援の意義と目的を理解し、様々な場面に応用できる技能を高めることを目標とする。				
到達目標	・食生活に関わる基本の知識・技術を身につけ、生活に応用させる。 ・サービス利用者の状態や状況に応じた、安全で効率の良い家事支援とその留意点などについて説明することができる。				
テキスト・ 参考図書等	『最新・介護福祉士養成講座6生活支援技術Ⅰ　第2版』 介護福祉士養成講座編集委員会　中央法規出版 『オールガイド食品成分表2023』 実教出版				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準
	試験	60%	定期試験、講義中のミニテスト、提出物から総合的に評価する。
	レポート	%	
	小テスト	10%	
	提出物	30%	
	その他	%	

履修上の留意事項	教室で教科書・プリント・視聴覚機器を使用する講義と、家政学実習室を使用し演習を行います。定期試験、講義中のミニテスト、提出物、実習の取組姿勢から総合的に評価します。提出物の提出期限を守ること、積極的に授業に参加することを心掛けてください。

履修主題・履修内容	回数	履修主題	履修内容
	1	家庭生活の営み①	食生活の基本知識①食文化、食生活の変化
	2	家庭生活の営み②	食生活の基本知識②栄養の理解（炭水化物、脂質）
	3	家庭生活の営み③	食生活の基本知識③栄養の理解（たんぱく質、無機質、ビタミン）
	4	家庭生活の営み④	食生活の基本知識④献立の立て方・食品の購入と選択
	5	家庭生活の営み⑤	食生活の基本知識⑤高齢者・障がい者の食事と調理
	6	家庭生活の営み⑥	食生活の基本知識⑥疾患と食事
	7	家事支援における介護技術①	調理実習レポートの書き方，実習室の使い方，掃除とごみ捨てについて
	8	家事支援における介護技術②	第1回調理実習　献立に基づく栄養価計算、食品の調理性、技法
	9	家事支援における介護技術③	〃　実習・反省 、次回の実習について
	10	家事支援における介護技術④	第2回調理実習　生活習慣病予防の食事、食品の調理性、技法
	11	家事支援における介護技術⑤	〃　実習・反省 、次回の実習について
	12	家事支援における介護技術⑥	第3回調理実習　高齢者・障がい者向けの食事、食品の調理性、技法
	13	家事支援における介護技術⑦	〃　実習・反省 、次回の実習について
	14	家事支援における介護技術⑧	第4回調理実習　高齢者・障がい者向けの食事、食品の調理性、技法
	15	家事支援における介護技術⑨	〃　実習・反省 、次回の実習について

2023年度　　専門学校北海道福祉・保育大学校　　社会福祉学科

授業科目 （科目ID）	生活支援技術Ⅱ	担当教員 （実務経験）	武内　玲美 有 ☐　無 ☑		
対象年次・学期	1年・後期	必修・選択区分	必修	単位数	1単位
授業形態	演習	授業回数（1回90分）	15回	時間数	30時間
授業目的	尊厳や保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が継続できるよう、根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を習得することを目的とする。特に本講義では、生活支援における家庭生活にかかわる基本知識を学ぶことに重点を置き、さらに家事支援の意義と目的を理解し、様々な場面に応用できる知識・技術の習得を目的とする。				
到達目標	・家庭生活に関わる基本の知識・技術を身につけ、生活に応用させることができる。 ・サービス利用者の状態や状況に応じた、安全で効率の良い家事支援とその留意点などについて説明することができる。				
テキスト・ 参考図書等	『最新・介護福祉士養成講座6　生活支援技術Ⅰ第2版』 介護福祉士養成講座編集委員会　中央法規出版				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準
	試験	70%	定期試験、提出物から総合的に評価する。
	レポート	%	
	小テスト	%	
	提出物	30%	
	その他	%	

履修上の留意事項	教室で教科書・プリントを使用する講義と、家政学実習室を使用し演習を行う。定期試験、提出物、実習の取組姿勢から総合的に評価します。提出物の提出期限を守ること、積極的に授業に参加することを心掛けてください。

履修主題・履修内容	回数	履修主題	履修内容
	1	生活支援とは何か	生活を理解する視点・生活支援の基本的な考え方
	2	家庭生活の理解	家庭生活の営みとは　問題演習①
	3	家庭生活の理解	生活設計の考え方（家庭管理）
	4	家庭生活の理解	生活設計の考え方（家庭経済）　問題演習②
	5	家庭生活の営み	被服生活の基本知識①（被服の機能・被服の管理）
	6	家庭生活の営み	被服生活の基本知識②（被服の素材）　問題演習③
	7	家庭生活の営み	被服生活の基本知識③（被服の洗濯）
	8	家庭生活の営み	被服生活の基本知識④（皮膚の衛生保持・管理）　問題演習④
	9	家庭生活の営み	被服の裁縫（裁縫の基本①）
	10	家庭生活の営み	被服の裁縫（裁縫の基本②）
	11	家事支援における介護技術	被服の裁縫（裁縫の基本③）
	12	家事支援における介護技術	被服の裁縫（裁縫の応用①）
	13	家事支援における介護技術	被服の裁縫（裁縫の応用②）
	14	家事支援における介護技術	被服の裁縫（裁縫の応用③）
	15	まとめ	重要項目の確認と演習問題

2023年度　　専門学校北海道福祉・保育大学校　　社会福祉学科

授業科目 （科目ID）	生活支援技術Ⅲ	担当教員 （実務経験）	山谷　博美 有 ☑　無 ☐　介護福祉士として介護老人保健施設に勤務		
対象年次・学期	1年・通年	必修・選択区分	必修	単位数	3単位
授業形態	演習	授業回数（1回90分）	45回	時間数	90時間
授業目的	本人主体の生活が継続できるよう、介護を必要とする対象や様々な場面における根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を習得する。				
到達目標	その人の状況や場面に合わせて、『障害などがあってもこれまでの生活が継続されるように現在の状態を把握し、潜在能力を引き出す』『自立を目指してできる能力を伸ばしていく』といった個別性を重視した介護を展開できるようになる。				
テキスト・ 参考図書等	『最新・介護福祉士養成講座6生活支援技術Ⅰ　第2版』 介護福祉士養成講座編集委員会　中央法規出版 『最新・介護福祉士養成講座7生活支援技術Ⅱ　第2版』 介護福祉士養成講座編集委員会　中央法規出版				

評価方法・ 評価基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準
	試験	60%	その他については、実技達成状況の評価とする。
	レポート	5%	
	小テスト	10%	
	提出物	5%	
	その他	20%	

履修上の 留意事項	・教科書に基づき講義・演習するが、必要に応じて参考資料配布・DVD・AR等を活用する。 ・介護実習室にて演習を行う場合「介護技術学内実習の受け方」に従う。 ・介護技術の基本をマスターできるように、繰り返しの練習とその根拠を知った上で行うことが重要となる。各自の積極性が求められ、授業時間以外においても復習が必要となり常に何ができて何が不充分であるかを確認しながら行ってほしい。

履修主題・ 履修内容	回数	履修主題	履修内容
	1	基本となる介護技術とは何か（山谷）	生活支援技術を学ぶにあたって
	2	生活者体験（山谷）	高齢者・片麻痺体験《実技》
	3	自立に向けた移動の介護①（工藤）	移動の基礎知識、ボディメカニクスの理解
	4	自立に向けた移動の介護②（工藤）	体位変換～上方移動・水平移動～《実技》
	5	自立に向けた移動の介護③（工藤）	体位変換～背面法・対面法～《実技》
	6	自立に向けた移動の介護④（工藤）	体位変換～仰臥位→端座位→立位～①《実技》
	7	自立に向けた移動の介護⑤（工藤）	体位変換～仰臥位→端座位→立位～②《実技》
	8	自立に向けた移動の介護⑥（工藤）	体位変換の復習《実技》
	9	自立に向けた移動の介護⑦（工藤）	体位変換【実技チェック／振り返りシート作成】《実技》
	10	自立に向けた移動の介護⑧（橋本）	褥瘡の予防、安楽な体位の保持、車いすの基礎知識《実技》
	11	自立に向けた移動の介護⑨（橋本）	ベッド⇔車いすの移乗①《実技》
	12	自立に向けた移動の介護⑩（橋本）	ベッド⇔車いすの移乗②《実技》
	13	自立に向けた移動の介護⑪（橋本）	ベッド⇔車いすの移乗③《実技》
	14	自立に向けた移動の介護⑫（橋本）	移乗【実技チェック／振り返りシート作成】《実技》
	15	自立に向けた移動の介護⑬（橋本）	屋内の車いす移動①《実技》

履修主題・履修内容	16	自立に向けた移動の介護⑭（橋本）	屋内の車いす移動②《実技》
	17	自立に向けた移動の介護⑮（山谷）	屋外の車いす移動①《実技》
	18	自立に向けた移動の介護⑯（山谷）	屋外の車いす移動②《実技》
	19	自立に向けた食事の介護①（山谷）	食事の基礎知識、具体的支援内容
	20	自立に向けた食事の介護②・STとの連携（山谷）	嚥下のメカニズムと嚥下の観察や食事時のポジショニング、トロミについて、嚥下体操
	21	自立に向けた食事の介護③（山谷）	食事介助の体験①《実技》
	22	自立に向けた排泄の介護①（山谷）	排泄の基礎知識～リハビリパンツ体験～
	23	自立に向けた排泄の介護②（山谷）	トイレでの排泄介助（リハビリパンツ、尿とりパッド）《実技》
	24	自立に向けた排泄の介護③（山谷）	尿器、便器、ポータブルトイレ、パウチ《実技》
	25	自立に向けた排泄の介護④（山谷）	紙おむつ①《実技》
	26	自立に向けた排泄の介護⑤（山谷）	紙おむつ②《実技》
	27	自立に向けた排泄の介護⑥（山谷）	排泄【実技チェック／振り返りシート作成】《実技》
	28	自立に向けた排泄の介護⑦（山谷）	立位での紙おむつ、布おむつ《実技》
	29	介護実技試験対策①（山谷）	介護実技試験対策①《実技》
	30	介護実技試験対策②（山谷）	介護実技試験対策②《実技》
	31	介護実技試験対策③（山谷）	介護実技試験対策③《実技》
	32	介護実習の振り返り①（山谷）	介護実習の振り返り①《実技》
	33	介護実習の振り返り②（山谷）	介護実習の振り返り②《実技》
	34	自立に向けた移動の介護⑰（山谷）	杖歩行《実技》
	35	自立に向けた移動の介護⑱（山谷）	様々な移乗方法《実技》
	36	自立に向けた移動の介護⑲（山谷）	福祉用具を用いた介助《実技》
	37	自立に向けた移動の介護⑳（山谷）	日常生活道具を用いた介助《実技》
	38	居住環境の整備①（山谷）	住まいの役割と機能
	39	居住環境の整備②（山谷）	生活空間
	40	居住環境の整備③（山谷）	快適な室内環境
	41	居住環境の整備④（山谷）	安全に暮らすための生活環境
	42	居住環境の整備⑤（山谷）	居住環境の整備における多職種との連携
	43	居住環境の整備⑥（山谷）	居住環境のまとめ
	44	介護福祉士国家試験対策（山谷）	介護福祉士国家試験に向けた模擬問題
	45	まとめ（山谷）	生活支援技術のまとめ

授業科目 （科目ID）	生活支援技術Ⅲ	担当教員 （実務経験）	工藤　大暉 有 ☑ 無 ☐ 介護福祉士として介護老人保健施設に勤務
対象年次・学期	1年・通年	担当教員 （実務経験）	橋本　亮太 有 ☑ 無 ☐ 介護福祉士として介護老人福祉施設に勤務
授業形態	演習		
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐

2023度　　専門学校北海道福祉・保育大学校　　社会福祉学科

授業科目 （科目ID）	生活支援技術Ⅳ	担当教員 （実務経験）	織田　なおみ 有 ☑　無 ☐　介護福祉士として障害者支援施設に勤務		
対象年次・学期	1年・通年	必修・選択区分	必修	単位数	2単位
授業形態	演習	授業回数（1回90分）	30回	時間数	60時間
授業目的	この科目で学ぶ介護技術は、単に介助の方法を学ぶだけでなく、その人がこれまでの生活習慣で獲得してきた様式や個性に着目して支援することの大切さを学びます。また、「老い」や「障害」等の見える部分のみを捉えて支援するのではなく、その人を取り巻く環境（人・物）や周囲との関係（相互作用）性等を多角的に捉え、根拠に基づく介護実践（知識と技術の習得）を目指します。				
到達目標	①様々な日常生活行為における意義と目的を説明することができる。②様々な日常生活行為におけるアセスメントの視点を養い、それらを述べることができる。③なぜそのように支援するのか、支援の根拠を理解し述べることができる。④介助におけるポイントや留意点を踏まえ、安全で正確な介助を実施することができる。				
テキスト・ 参考図書等	『最新・介護福祉士養成講座6生活支援技術Ⅰ　第2版』 介護福祉士養成講座編集委員会　中央法規出版 『最新・介護福祉士養成講座7生活支援技術Ⅱ　第2版』 介護福祉士養成講座編集委員会　中央法規出版				

評価方法・ 評価基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準
	試験	50%	定期試験：生活行為の意義・目的、また、支援の根拠等の理解度を評価する。 レポート：課題把握、構成や体裁、考察状況等をルーブリック評価にて評価する。 その他：実技達成状況（30%）、授業姿勢（10%）とする。
	レポート	10%	
	小テスト	%	
	提出物	%	
	その他	40%	

履修上の 留意事項	①教科書に基づいて講義・演習を展開しますが、必要に応じて参考資料配布・視聴覚教材・ARを使用します。②歯科衛生学科教員より口腔ケア講習を受講します。③介護実習室にて演習を行う場合「介護技術学内実習の受け方」に従ってください。④介護技術の習得には、根拠を正しく理解した上で繰り返し取り組む姿勢が重要です。関連科目の横断学習と、授業中はもとより授業時間外でも積極的な練習姿勢を求めます。

履修主題・ 履修内容	回数	履修主題	履修内容
	1	基本となる介護技術とは何か、ベッドメイキング①	生活支援技術を学ぶにあたって、ベッドメイキングの基礎知識
	2	ベッドメイキング②	シーツの畳み方、敷き方（三角コーナー・四角コーナー）①《実技》
	3	ベッドメイキング③	敷き方（三角コーナー・四角コーナー）②《実技》
	4	ベッドメイキング④	敷き方（三角コーナー・四角コーナー）③《実技》
	5	ベッドメイキング⑤	敷き方（三角コーナー・四角コーナー）④《実技》
	6	ベッドメイキング⑥	ベッドメイキング一式、臥床したままでのシーツ交換《実技》
	7	ベッドメイキング⑦	ベッドメイキング【実技チェック】《実技》
	8	自立に向けた身じたくの介護①	着脱の基礎知識
	9	自立に向けた身じたくの介護②	前開きの衣類の着脱（座位）《実技》
	10	自立に向けた身じたくの介護③	丸首衣類の着脱（座位・臥位）《実技》
	11	自立に向けた身じたくの介護④	前開きの衣類の着脱（臥位）《実技》①
	12	自立に向けた身じたくの介護⑤	前開きの衣類の着脱（臥位）《実技》②
	13	自立に向けた身じたくの介護⑥	日常着の着脱、浴衣の着脱《実技》
	14	自立に向けた身じたくの介護⑦	着脱【実技チェック／振り返りシート作成】《実技》
	15	自立に向けた入浴・清潔保持の介護①	入浴に関する基礎知識

履修主題・履修内容	16	自立に向けた入浴・清潔保持の介護②	全身清拭《実技》
	17	自立に向けた入浴・清潔保持の介護③	入浴介助《実技》
	18	自立に向けた入浴・清潔保持の介護④	手浴・足浴の介護
	19	自立に向けた入浴・清潔保持の介護⑤	ハンドマッサージ①《実技》
	20	自立に向けた入浴・清潔保持の介護⑥	ハンドマッサージ②《実技》
	21	自立に向けた入浴・清潔保持の介護⑦	ハンドマッサージ③《実技》
	22	自立に向けた身じたくの介護⑧	整容（爪・ひげ剃り）の介助《実技》
	23	自立に向けた身じたくの介護⑨	口腔ケア①《実技》
	24	自立に向けた身じたくの介護⑩	口腔ケア②《実技》
	25	休息と睡眠環境を整える	休息と睡眠の基礎知識、睡眠の介護と多職種連携
	26	介護技術の振り返り①	介護技術の振り返り《実技》
	27	介護技術の振り返り②	介護技術の振り返り《実技》
	28	介護技術の振り返り③	介護技術の振り返り《実技》【実技チェック／振り返りシートの作成】
	29	介護福祉士国家試験対策①	介護福祉士国家試験対策①
	30	介護福祉士国家試験対策②	介護福祉士国家試験対策②

2023年度　　専門学校北海道福祉・保育大学校　　社会福祉学科

授業科目 （科目ID）	レクリエーション支援	担当教員 （実務経験）	長江　孝 有 ☑　無 ☐　レクリエーションインストラクターとして こども共育サポートセンターに勤務		
対象年次・学期	1年・前期	必修・選択区分	必修	単位数	1単位
授業形態	演習	授業回数（1回90分）	15回	時間数	30時間
授業目的	世界的な健康増進の動向の中で、「心を元気にする」ためのレクリエーション支援に注目が集められています。本演習では、レクリエーション支援の基礎を学びます。				
到達目標	レクリエーション支援者として、良好なコミュニケーションづくりの理論に裏付けられた信頼関係を築く方法（ホスピタリティ）や動機づけの理論に裏付けられた「自主的、主体的に楽しむ力を高めるレクリエーション活動の展開方法」（アイスブレーキング）を実施できるようになる。				
テキスト・ 参考図書等	『楽しさをとおした心の元気づくり～レクリエーション支援の理論と方法～』 公益財団法人日本レクリエーション協会				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準
	試験	%	小テスト・提出物・演習時の実技・授業への積極的な参加姿勢（発言や意見交換）を総合的に評価します。
	レポート	%	
	小テスト	30%	
	提出物	30%	
	その他	40%	

履修上の 留意事項	テキスト・プリントを基に授業を展開します。体を動かすレクリエーション活動を中心に行ないますので、動きやすい服装で参加してください。楽しく積極的な参加を期待します。

履修主題・履修内容	回数	履修主題	履修内容
	1	オリエンテーション	授業の内容と評価について
	2	レクリエーション概論	レクリエーションとは？
	3	レクリエーション支援の方法	信頼関係づくりの方法・ホスピタリティ
	4	レクリエーション支援の方法	信頼関係づくりの方法・ホスピタリティ
	5	レクリエーション支援の方法	良好な集団づくりの方法アイスブレーキングモデル
	6	レクリエーション支援の方法	良好な集団づくりの方法アイスブレーキングモデル
	7	レクリエーション支援の方法	良好な集団づくりの方法アイスブレーキングモデル
	8	レクリエーション支援の方法	自主的、主体的に楽しむ力を育むレクリエーション活動の展開方法
	9	レクリエーション支援の方法	自主的、主体的に楽しむ力を育むレクリエーション活動の展開方法
	10	レクリエーション支援の方法	自主的、主体的に楽しむ力を育むレクリエーション活動の展開方法
	11	レクリエーション支援実習	プログラムの立案
	12	レクリエーション支援実習	プログラムの立案
	13	レクリエーション支援実習	レクリエーション支援の実施
	14	レクリエーション支援実習	レクリエーション支援の実施
	15	レクリエーション支援実習	まとめ

授業科目 （科目ID）	レクリエーション支援	担当教員 （実務経験）	長江　集子 有 ☑ 無 ☐ レクリエーションインストラクターとして こども共育サポートセンターに勤務
対象年次・学期	1年・前期	担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐
授業形態	演習		
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐

2023年度　　専門学校北海道福祉・保育大学校　　社会福祉学科

授業科目（科目ID）	介護過程の基礎	担当教員（実務経験）	宮下　史惠 有 ☑　無 ☐　介護福祉士として社会福祉協議会に勤務		
対象年次・学期	1年・前期	必修・選択区分	必修	単位数	2単位
授業形態	講義	授業回数（1回90分）	15回	時間数	30時間
授業目的	介護福祉士として専門的な見地から介護を提供できるように、対象となる人の能力を引き出し、本人主体の生活を地域で継続するための介護過程の展開をできる能力を養う。				
到達目標	介護過程の展開を理解し、介護福祉士として専門的な見地から利用者を適切に捉え、本人主体の介護過程を展開できるようになる。				
テキスト・参考図書等	『最新・介護福祉士養成講座9　介護過程　第2版』 介護福祉士養成講座編集委員会　中央法規出版				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準
	試験	70%	定期試験、提出物、グループワークへの参加態度などから総合的に評価を行う。
	レポート	%	
	小テスト	%	
	提出物	20%	
	その他	10%	

履修上の留意事項	テキストをベースに「読む」、「考える」、「書く」、「伝える」講義を中心に、展開過程の演習（事例検討・グループワーク）を並行し「理解する」、「出来る」講義を進めていきます。また、講義内容に沿ったプリント配布があるため、各自でファイルを用意し、ノートやプリントの整理を行ってください。

履修主題・履修内容	回数	履修主題	履修内容
	1	介護過程の意義・目的	介護過程の意義と目的
	2	介護過程の構成要素	介護過程の展開・全体像
	3	介護過程とICF①	ICFの視点と介護過程の関係
	4	介護過程とICF②	ICFを活用した情報収集（個人ワーク①）
	5	介護過程とICF③	ICFを活用した情報収集（個人ワーク②）
	6	介護過程とICF④	ICFを活用した情報収集（グループワーク）
	7	介護過程とICF⑤	ICFを活用した情報収集（発表）
	8	アセスメント（情報収集）①	情報収集の意義・アセスメントの視点
	9	アセスメント（情報収集）②	情報収集と記録（ケーススタディの記録方法①）
	10	アセスメント（情報収集）③	情報収集と記録（ケーススタディの記録方法②）
	11	アセスメント（情報収集）④	事例検討Ⅰ（情報収集の個人ワーク①）
	12	アセスメント（情報収集）⑤	事例検討Ⅰ（情報収集の個人ワーク②）
	13	アセスメント（情報収集）⑥	事例検討Ⅰ（情報収集の個人ワーク③）
	14	アセスメント（解釈・関連付け・統合化）	アセスメントの実際（解説と簡単な個人演習）
	15	まとめ	介護過程の基礎まとめ

2023年度　　専門学校北海道福祉・保育大学校　　介護福祉学科

授業科目 （科目ID）	介護過程の実践Ⅰ	担当教員 （実務経験）	髙橋　綾 有 ☑　無 ☐　介護福祉士としてケアハウスに勤務		
対象年次・学期	1年・通年	必修・選択区分	必修	単位数	3単位
授業形態	講義	授業回数（1回90分）	23回	時間数	45時間
授業目的	介護福祉士として専門的見地から介護を提供できるように、対象となる人の能力を引き出し、本人主体の生活を地域で継続するための介護過程の展開をできる能力を養う。				
到達目標	本人の望む生活の実現にむけて、生活課題の分析を行い、根拠に基づく介護実践を伴う課題解決の思考過程、チームとしての介護過程展開能力を習得する。				
テキスト・ 参考図書等	『最新・介護福祉士養成講座9介護過程　第2版』 介護福祉士養成講座編集委員会　中央法規出版				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準
	試験	60%	その他は、提出課題の内容や提出期限、授業への取り組み姿勢、グループワークや発表への積極的姿勢など総合的に評価します。
	レポート	%	
	小テスト	%	
	提出物	10%	
	その他	30%	

履修上の 留意事項	講義や演習では学生参加型授業が主となります。理解できない場合は質問するなど、積極的な参加を求めます。介護サービス提供に向けて大切な授業です。授業中に課した課題を次回の授業教材として使用する場合があるので、課題の提出期限は必ず守ってください。

履修主題・履修内容	回数	履修主題	履修内容
	1	介護過程の基礎の振り返り	介護過程の基礎の振り返り
	2	アセスメント（解釈・関連付け・統合化）①	アセスメント（解釈・関連付け・統合化）について
	3	アセスメント（解釈・関連付け・統合化）②	事例検討Ⅰ（アセスメント・個人演習）
	4	アセスメント（解釈・関連付け・統合化）③	事例検討Ⅰ（アセスメント・グループワーク）
	5	アセスメント（解釈・関連付け・統合化）④	事例検討Ⅰ（アセスメント・グループワーク）
	6	介護計画立案①	介護計画立案について
	7	介護計画立案②	事例検討Ⅰ（介護計画立案・個人演習）
	8	介護計画立案③	事例検討Ⅰ（介護計画立案・グループワーク）
	9	介護計画立案④	事例検討Ⅰ（介護計画立案・グループワーク）
	10	事例検討	事例検討Ⅱ（アセスメント）
	11	事例検討	事例検討Ⅱ（アセスメント）
	12	事例検討	事例検討Ⅱ（介護計画立案）
	13	事例検討	事例検討Ⅱ（介護計画立案）
	14	事例検討	事例検討Ⅲ（自身の実習事例から～個人ワーク①）
	15	事例検討	事例検討Ⅲ（自身の実習事例から～個人ワーク②）

履修主題・ 履修内容	16	事例検討	事例検討Ⅲ（自身の実習事例から～個人ワーク③）
	17	事例検討	事例検討Ⅲ（自身の実習事例から～個人ワーク④）
	18	介護過程とケアマネジメント①	介護過程とケアマネジメントの関係性
	19	介護過程とケアマネジメント②	チームアプローチにおける介護福祉士の役割①
	20	介護過程とケアマネジメント③	チームアプローチにおける介護福祉士の役割②
	21	国家試験対策模擬問題①	国家試験対策模擬問題①
	22	国家試験対策模擬問題②	国家試験対策模擬問題②
	23	まとめ	介護過程の実践Ⅰまとめ

2023年度　　専門学校北海道福祉・保育大学校　　社会福祉学科

授業科目 （科目ID）	介護総合演習Ⅰ	担当教員 （実務経験）	髙橋　綾 有 ☑　無 ☐　介護福祉士としてケアハウスに勤務		
対象年次・学期	1年・通年	必修・選択区分	必修	単位数	2単位
授業形態	演習	授業回数（1回90分）	30回	時間数	60時間
授業目的	介護福祉基礎実習及び介護福祉実習Ⅰにおける事前、事後学習として位置付け、実習に必要な知識や技術の統合を行うとともに、介護観を形成し、専門職としての態度を養う。				
到達目標	介護福祉実習に必要とされる施設や利用者理解、記録方法の理解、行事プログラムの計画や実践など介護実践に必要な能力を身につける。また実習を振り返り、介護の知識と技術を実践へと結び付けることができる。				
テキスト・ 参考図書等	『最新 介護福祉士養成講座10　介護総合演習・介護実習　第2版』 介護福祉士養成講座編集委員会　中央法規出版 『令和5年度介護福祉実習要項』 学校法人吉田学園専門学校北海道福祉・保育大学校				

評価方法・ 評価基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準
	試験	%	課題の内容、提出状況、実習の進め方や記録方法の理解度にて総合的に評価します。
	レポート	%	
	小テスト	%	
	提出物	30%	
	その他	70%	

履修上の 留意事項	提出物は施設に提出するものもあり、期限厳守でお願いします。理解できないままにしておくと介護福祉実習に影響します。不安なく実習に向かえるよう積極的に取り組んでください。原則欠席をしないことですが、欠席した場合は翌登校時に必ず教員のところへ確認に来るようにしてください。

履修主題・ 履修内容	回数	履修主題	履修内容
	1	介護実習の意義と目的（山谷）	介護実習の意義と目的、到達目標、学習区分と学習内容
	2	実習施設の理解①（泉）	介護福祉基礎実習①の事業所理解について
	3	実習施設の理解②（泉）	介護福祉基礎実習①の事業所理解について、実習目標
	4	記録物について①（泉・髙橋）	個人票の作成①
	5	記録物について②（泉・髙橋）	個人票の作成②、誓約書・同意書の作成
	6	記録物について③（泉・山谷）	実習日誌の目的、目標設定と記録方法、実習日誌の練習①
	7	実習心得（泉・髙橋）	実習の心得、接遇マナー、電話対応
	8	行事運営の理解①（髙橋）	外出レクリエーション計画作成①
	9	行事運営の理解②（髙橋）	外出レクリエーション計画作成②、実習日誌の練習②
	10	介護福祉基礎実習①オリエンテーション（泉・髙橋・山谷）	実習評価について、記録物の確認、提出方法と確認、お礼状
	11	介護福祉基礎実習①まとめ（泉・髙橋・山谷）	介護福祉基礎実習①の振り返り、自己評価
	12	実習施設の理解③（髙橋）	介護福祉基礎実習②の事業所理解について
	13	実習施設の理解④（髙橋）	介護福祉基礎実習②の事業所理解について、実習目標
	14	介護福祉基礎実習②オリエンテーション（泉・髙橋・山谷）	実習評価について、記録物の確認、提出方法と確認、お礼状
	15	介護福祉基礎実習②まとめ（泉・髙橋・山谷）	介護福祉基礎実習②の振り返り、自己評価

履修主題・履修内容	16	介護福祉実習Ⅱ報告会（泉・髙橋・山谷）	介護福祉実習Ⅱ報告会に参加
	17	実習施設の理解⑤（髙橋）	介護福祉基礎実習③の事業所理解について
	18	実習施設の理解⑥（髙橋）	介護福祉基礎実習③の事業所理解について、実習目標
	19	介護福祉基礎実習③オリエンテーション（泉・髙橋・山谷）	実習評価について、記録物の確認、提出方法と確認、お礼状
	20	介護福祉基礎実習③まとめ（泉・髙橋・山谷）	介護福祉基礎実習③の振り返り、自己評価
	21	実習計画の作成①（山谷）	自己の実習計画をイメージし、週別目標を作成
	22	実習計画の作成②（山谷）	自己の実習計画をイメージし、週別目標を作成
	23	介護福祉実習Ⅰオリエンテーション（泉・髙橋・山谷）	カンファレンスの目的と記録、実施方法、記録物の提出方法、実習後のスケジュール
	24	介護福祉実習Ⅰまとめ①（泉・髙橋・山谷）	介護福祉実習Ⅰ振り返り①
	25	介護福祉実習Ⅰまとめ②（泉・髙橋・山谷）	介護福祉実習Ⅰ振り返り②
	26	介護福祉実習Ⅰまとめ③（泉・髙橋・山谷）	介護福祉実習Ⅰ振り返り③
	27	介護福祉実習Ⅰ報告会（泉・髙橋・山谷）	介護福祉実習Ⅰ報告会
	28	介護福祉実習Ⅰ後学習①（泉・髙橋・山谷）	自己評価、自己覚知、2年次実習へ向けた課題
	29	介護福祉実習Ⅰ後学習②（髙橋）	福祉施設と地域の繋がり、社会支援体制①
	30	介護福祉実習Ⅰ後学習③（髙橋）	福祉施設と地域の繋がり、社会支援体制②

授業科目 （科目ID）	介護総合演習Ⅰ	担当教員	泉　共基
		（実務経験）	有 ☑ 無 ☐ 看護師として病院に勤務
対象年次・学期	1年・通年	担当教員	山谷　博美
授業形態	演習	（実務経験）	有 ☑ 無 ☐ 介護福祉士として介護老人保健施設に勤務
		担当教員	
		（実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員	
		（実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員	
		（実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員	
		（実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員	
		（実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員	
		（実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員	
		（実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員	
		（実務経験）	有 ☐ 無 ☐